

官

報

號外

明治三十二年一月二十一日 日曜日

印 刷 局

○第十三回 帝國議會衆議院議事速記錄第十九號

明治三十二年一月二十一日(土曜日)午後一時十四分開議

議事日程 第十七號 明治三十二年一月二十一日 午後一時開議

第一 家屋稅法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

醤油稅則中改正法律案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

(政府提出)國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル法律案

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

戎器火藥類取締法案(政府提出)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

(政府提出)臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ裁判權

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

供託法案
委員長
特別年限地租增徵ニ關スル法律案
理事
委員長
明治二十九年法律第九十一號中改正法律案外一件
委員長
理事
委員長
愛媛縣下郡界變更法律案
委員長
理事
委員長
府縣農事試驗場國庫補助法案外一件
委員長
理事
委員長
特別委員左ノ通指名セリ

質屋取締法中改正法律案委員
西村淳藏君
本城安次郎君
齋藤安雄君
岩瀬武司君
武市庫太君
利光鶴松君
橋本久太郎君
大塚成吉君
岡本松太郎君
須藤善一郎君
菅野善右衛門君
西原清東君
雨森菊太郎君
岡田龍松君
多田通君
佐藤伊助君
宮井茂九郎君
大三輪長兵衛君
鈴木重遠君
内藤正義君
高須賀謙君
喬君
金作君

賃貸價格ハ一構ノ建物毎ニ之ヲ定ム
第三條 官有家屋及國府縣郡市區町村ニ公用ニ供スル家屋、教育慈善祭祀
宗教ノ用ニ供スル家屋ニハ家屋稅ヲ課セス

賃貸價格五圓未満ノ家屋ニハ家屋稅ヲ課セス
政府又ハ府縣郡市區町村ヨリ貧民トシテ救助ヲ受クル者ハ家屋稅ヲ免除ス

第四條 新ニ建築シタル家屋又ハ前條ニ該當シタル家屋ニシテ之ニ該當セ
サルニ至リタルモノハ其ノ時時賃貸價格ヲ定メ其ノ翌年ヨリ家屋稅ヲ課セス

家屋ヲ増築シ若ハ家屋ノ一部ヲ滅失シタルトキハ其ノ時時賃貸價格ヲ更
定シ其ノ翌年ヨリ更定賃貸價格ニ依リ家屋稅ヲ課ス

第五條 家屋ノ賃貸價格ハ調査委員會ノ決議ニ依リ政府之ヲ定ム但シ第四
條ノ場合ハ他ノ比準ニ依リ政府之ヲ定ム

第六條 調査委員會ハ市區町村每ニ之ヲ置ク但シ命令ヲ以テ市區町村ヲ區
分シ又ハ合併シテ調査委員會ヲ置クコトヲ得

第七條 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員ヲ選舉シ又ハ調
第八條 選舉區域内ニ住居シ家屋ヲ所有スル者ハ調査委員ヲ選舉シ又ハ調
査委員ニ選舉セラルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ調査委員ト爲ルコ
トヲ得ス

一 無能力者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ
宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテ

ノ者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

四 剝奪公權者及停止公權者

五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマ
テノ者

第九條 調査委員ノ定數ハ千戸以上ノ選舉區ニ於テハ七人五百戸以上ノ選
舉區ニ於テハ五人五百戸未満ノ選舉區ニ於テハ三人トス

第十條 調査委員ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行ス

第十一條 調査委員ノ選舉期日ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ定メ七日前ニ公
示スヘシ

第十二條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第十三條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキト
キハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公
示スヘシ

第十五條 調査委員ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第十七條 調査委員會ハ會長ハ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 調査委員會ハ委員過半數出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スルト
コロニ依ル

第十九條 調査委員ハ自己ノ利害ノ關係アル事件ニ關スル議事ニ與カルコ
トヲ得ス

第二十條 稅務署長及其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スル
コトヲ得

第二十一條 明治三十二年八月三十日マテニ調査委員會成立セサルカ又ハ
付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタルトキハ之ヲ再調査ニ
付ス

第二十二條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ
付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタルトキ日ヨリ十五日
以内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ決定ス

第二十三條 家屋ノ賃貸價格ヲ決定シタルトキハ之ヲ其ノ市區町村長又ハ
戸長ニ通知シ市區町村長又ハ戸長ノ告知シタルトキ日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ
テ異議アルトキハ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ

第二十四條 家屋所有者市區町村長又ハ戸長ノ告知シタルトキハ之ヲ其ノ市區町村長又ハ
戸長ニ通知シ市區町村長又ハ戸長ノ告知シタルトキ日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ
テ異議アルトキハ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ

第二十五條 前條ノ請求アリタルトキハ鑑定人ヲ定メ之ヲ鑑定セシム鑑定
一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 鑑定人ハ四人トシ二人ハ政府之ヲ命シ二人ハ其ノ市區町村長又ハ戸長之
ヲ選定ス但シ收稅官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者又ハ其ノ調查
ニ與カリタル者ハ鑑定人ト爲ルコトヲ得ス

第二十七條 鑑定人ハ關スル費用ハ不服申立者ノ負擔トス

第二十八條 賃貸價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得
トスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十九條 家屋ヲ建築シ又ハ増築シタルトキ又ハ第三條ニ該當シタル家
屋ニシテ之ニ該當セサルニ至リタルトキハ其ノ所有者ヨリ政府ニ申告ス
ヘシ

第三十條 家屋稅ハ現ニ所有者トシテ家屋臺帳ニ登錄セラレタル者ヨリ之
ヲ徵收ス

第三十一條 家屋ニシテ新ニ第三條ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ家屋ノ
全部ヲ滅失シタルトキハ六月以前ニ在テハ年額ノ全部ヲ免除シ七月以後

ニ在テハ其ノ半額ヲ免除ス

第三十二條 家屋所有者家屋ノ所在地ニ現住セサルトキハ家屋稅ニ關スル
事項ヲ處理セシムル爲メ其ノ地ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 收稅官吏ハ家屋ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 第二十八條ノ申告ヲ爲ス若ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ一
圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ脫稅シタル者ハ仍脫稅高三倍

ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタルトキハ其ノ稅金ヲ追徵シ其罪ヲ問
ハス

第三十五條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ課稅セラルル家屋ニ對シ國稅十分ノ二
以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得此ノ附加稅ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課ス
ルコトヲ得ス

市町村ハ此ノ法律ニ依リ課稅セラルル家屋ニ對シ國稅ノ附加稅トシテ課
稅スルノ外特別稅ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十六條 此ノ法律ニ依ル家屋稅ハ明治三十二年分ヨリ徵收ス

第三十七條 第二十九條ニ依ル八月ノ納期ハ明治三十二年ニ限リ十月トス

第三十八條 府縣又ハ市町村ニ於テ暦年ニ依ラシテ家屋稅ヲ課スルモノ

ハ明治三十一年度分及明治三十二年度分ニ限リ第三十五條ノ規定ニ依ル

ノ限ニ在ラス

第三十九條 此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス
○工藤行幹君(百二十五番)是ニ附イテ、チヨット御尋シタイコトガゴザイ
マスカラ、政府委員ニ答辯ヲ願ヒタイ、此三十五條ニ家屋稅ハ國稅ノ十分ノ
ニヨリ府縣稅ヲ課スルコトガ出來ナイ、又市町村ニ於テモ矢張同様制限ヲ置
イテ居ルノデゴザイマスガ、現今行ハレテ居ル所ノ府縣制ノ戸數割、或ハ市
町村制ノ戸別割杯モ、矢張十分ノニヨリ課スルコトガ出來ヌノデゴザイマス
カ、或ハ戸數割戸別割ト云フ名目ハ別デアルカラ、無制限ニ掛ケテ宜イノデ
アルカト云フコトヲ、御尋シタイ

(政府委員大藏書記官若槻禮次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(若槻禮次郎君) 唯今ノ御尋ハ戸別割トカ、或ハ戸數割ト云フモ
ノハ、國稅トハマルデ別デゴザイマスカラ、其制限ニ從ハヌデ宜イノデゴザ
イマス

○工藤行幹君(百一十五番)モウ一ツ推返シテ承リタイノハ、府縣制ノ第五
十四條ニ依リマスルト、家屋稅ヲ課スルトキニハ戸數割ヲ課スルコトガ出來
ナシ、戸數割ヲ課スルトキニハ家屋稅ヲ課スルコトガ出來ナイト云フコトガ

アリマスガ、是ハイヅレデモ家屋稅ト云ヒ戸數割ト云ヒ、名ハ別デアラシテモ矢
張同一ノヤウニ府縣制デハナシテ居ルノデゴザイマス、然ルニ此度ノ法律
ニハ、名ハ別デアルカラ、家屋稅ハ幾ラ掛ケテモ、幾ラデモ無制限ニ戸數割ヲ
掛ケルト云フノハ、此五十八條ニ矛盾スルト思ヒマスガ、ソレニ抵觸スルヤ
否ヤト云フコトヲ、御尋シマス

○政府委員(若槻禮次郎君) 府縣制ノ中ニアリマス所ハ、如何ニモ其通デア
リマスノデ、家屋稅ヲ課スル所デハ、戸數割ヲ掛ケルコトハ出來ナイ、戸數
割ヲ掛ケル所デハ、家屋稅ヲ掛ケルコトガ出來ナイト云フコトガゴザイマス
ガ、ソレハ稍ニ似寄ッタ稅デアリマスカラ、府縣制デハ一方デ取ルナラバ、
一方デ取ツテナラナイト云フコトヲ定メタモノニアラウト思ヒマスケレド
モ、似寄クテ居ルト云フダケデアリマスノデ、稅其物ガ違ニテ居ルノデアリ
マスカラ、家屋稅ハ家屋標準ニシテ課スルモノデアリマシテ、戸數割ト云フモ
ノハ、戸ト云フモノヲ標準ニ致シマスカラ、府縣制デハサウ云フコトニナシテ
居リマスガ、稅ハ別モノデアリマスカラ、此法律デハ家屋稅ノ附加稅ハ、

此戸數割ノ方トノ關係ハナイコトニ見テ居リマスノデゴザリマス、尙ホ縦シ
ソコガ抵觸致シマシテモ、此法律が成立チマスト云フト、其點ニ於テハ此後
トデ出マシタ法律ノ力ガ有效ニナリマスカラシテ、自然ニ變シタモノニナリ
マスト、斯ウ考ヘテ居リマス

○工藤行幹君(百一十五番)モウ一應御尋シタイ、サウスルト此戸數割ヲ掛
ケナイデ、東京府ノ如ク家屋稅ヲ掛テ居ル所ガ、目下直ニ此地方稅ノ經濟
ニ直グニ響ガ起シテ、十分ノ一ヨリ掛ケルコトガ出來ナイ、而シテ此名目ヲ變
ヘナイデ、戸數割ニシテ居ツタ所ナラバ、無制限ニ掛ケルコトヲ得ルト云フ
コトハ、是ハ差支ナイコトニナリマス、果シテ然ラバ、三府ノ如キ家屋稅ニ
シテ掛ケテ居ツタ所ガ、直グニ此收入ニ差支ヲ生ズルダラウ、名ノ別ナルタ
メニ、大イニ實際困難ヲ生ズルダラウト思ヒマスガ、其邊ハ政府ハ如何ナサ
ル積リアルカト云フコトヲ承リタイ

○政府委員(若槻禮次郎君) ソレハ計算ヲ致シテ居リマスガ、今度計畫致シ
マシタ家屋稅ノ十分ノ一ト云フノデハ、現在取ツテ居リマス東京府杯ノ家屋稅
トハ、幾ラカ少クナシテ居リマスノデ、ソレダケノモノハ戸數割ノ方デハ、制
限ヲ置イテ居リマセヌカラ、戸數割トカ、或ハ其他ノ稅目ヲ起シマスナラバ、
其差位ノコトナラバ補フ途ガアルト、斯ウ考ヘテ居リマス

○菅野善右衛門君(百七十番)御伺ヒ致シマスガ、此家屋稅法ニ依シテ、政
府ノ歲入ノ豫算ハ幾百万圓ニナルデゴザイマスカ、次ニ又家屋稅法ノ施行ニ
要スル所ノ歲出、即チ委員會トカ或ハ稅務署トカニ要スル所ノ經費ハ、幾ラ
掛ケル豫算ニナシテ居ルカ、ソレカラ課稅ノ要ハ、最モ公平ニ偏頗ト云フヤウ
ナコトノナイヤウニナサネバナラスト云フコトハ、勿論ノコトデアルガ、思
フニ田舎ノ家屋ノ如キハ、賃貸價格ト云フモノハ一向ナイト私ハ思ウテ居
ル、何故ト云フニ、田舎ノ家屋ト云フモノハ、田畠ニ隨伴シテアルカラ、用
ヲ爲シテ居ルケレドモ、田畠ヲ離ツテ見レバ、一向價ノナインデゴザイマス、
例ヘバ都會ノ家屋デゴザイマスレバ、隨分賃貸價格モゴザイマセウガ、彼ノ
田舎ノ家屋ノ如キモノハ、田畠ニ附隨シテ居ル有様ハ、都會ノ家屋ノ道路、或
ハ鐵道港ト云フヤウナモノガ附隨シテ居ルト同シテ、若シ都會ノ家屋ニシテ
道路鐵道、或ハ港灣ト云フヤウナモノヲ離テバ、價ノナイン――賃貸價格ノナイ
ト同ジヤウナ有様デアルノデ、偶田舎ノ家屋デ明家トナシテ、貸屋トナルガ
ソレデゴザイマスカラ、之ヲ唯賃貸價格ヲ定ムルト云フコトハ強制的ニ定
メナケレバ、到底定メル標準ガナイン有様ニナシテ居ルノデアリマス、ソレデ
政府ハ此案ノ二十二條ニ「政府ニ於テ其賃貸價格ヲ決定ス」ト云フコトガゴザ
イマスガ、政府ニ於テ決定致シマスル方法手續ハ、トウ云フコトニナサルノ
デゴザイマスルカ、御聞キ申シタイ、ソレカラ此第二十五條ノ末項ノ「鑑定人
ニ關スル費用ハ不服申立者ヲ負擔トス」トアリマスガ、一體不服申立者ガ理由
ノ立タナシ場合ニハ、不服申立者ガ費用ヲ負擔スルノガ當リ前デアルト思フ
デゴザイマスルガ(「簡単々々ト呼フ者アリ)理由相當ニ相立チマスル場合ニ
モ、尙ホ此費用ヲ不服申立者ノ負擔ニナシメバナラスト云フノ理由ハ、
何等ノ點ニアルノデゴザイマスカ、實ハ此案ノ如キハ最モ惡稅デゴザイマシ
テ、我日本ノ輿論ニ反對シテ居ルモノト思ヒマスルカラ、聞クマデモナシ、勿
論是ハ通ルコトデアルマイトハ信ジテ疑ヒマセヌケレドモ、若シ萬一通レバ

已ムヲ得ナク法案ニアリマスカラ、御尋致シマス

(此時發言ヲ求ムルモノ多シ)

○議長(片岡健吉君) 今質問中アリマスルカラ……

○西村淳藏君(六十二番) 其質問ニ就イテ、チヨット御相談ガアル

○政府委員(若槻禮次郎君) 家屋稅ノ收入ノ概算ハ、二百六十五万八千六百五十二圓ト、斯ウ云フヤウニ見積リヲ立テ、居リマス、ソレカラ徵稅費ハ初年ニ於テハ凡ソ四百四十万バカリ掛ルト考ヘテ居リマス、ソレハ此調査委員ノ手當デアリマストカ、旅費デアリマストカ、其他臺帳ヲ作ルトカ云フヤウナコトガゴザイマスカラシテ、初年ニ於テハ百四十万バカリ掛ル積デゴザイマスガ、併シ次年度カラハ臺帳モ出來テシマツテ、後トハ殆ド徵稅費ハ掛ラヌトハ申シマセヌケレドモ、僅デ出來マセウト、斯ウ考ヘテ居リマス

○恵松隆慶君(九十七番) 此案ハ隨分雜多ナ案デゴザリマスルデ、之ヲ質問スレバ數限リモナイ、又サウ質問シナクテモ、サウ御氣遣ヒデナクテモ、大抵同一ナ意見ニ纏ラウト思ヒマスカラ、私ハ更ニ質問終結ト云フ動議ヲ出シ、意見ヲ述べマス

○議長(片岡健吉君) 御質問ガナイト云フコトニナレバ、議事日程第一ニ移ルコトヲ宣告致シマスガ、マダ第二ニ移ルコトハ宣告致シマセヌ

○恵松隆慶君(九十七番) ソコデ更ニ意見ヲ申シマス、此案ハ補填ニ關係スル案デゴザイマス……

○議長(片岡健吉君) 御質問ガナイト云フコトニナレバ、議事日程第一ニ移ルコトヲ宣告致シマスガ、マダ第二ニ移ルコトハ宣告致シマセヌ

○恵松隆慶君(九十七番) ソコデ更ニ意見ヲ申シマス、此案ハ補填ニ關係スル案デゴザイマス……

○恵松隆慶君(九十七番) 私ハ意見ヲ前以テ述べテ置クノデスガ、ソレデハ第二ニ移ラレントコトヲ希望致シマス

○恵松隆慶君(九十七番) 質問ガアリマス

○望月長夫君(十九番) 質問ガ澤山アツテ終結ニナシテ居ルト呼フ

○望月長夫君(十九番) 政府ハ歲入補填ノタメニ、此案ヲ出シタト云フコトデゴザイマスガ、本員杯ノ考ハ、此案ハ公平ヲ維持スルコトモ、又國民ノ負擔ノ上ニ於テモ、餘程困難ナ案デアラウト思フ、然ルニ政府ガ茲ニ此案ヲ御出シニナシタニ附イテハ、能ク公平ヲ維持シ得テ、且ツ國民ノ負担ニ堪ヘルト云フコトハ、御見込ガアルニ相違ナイ、此點ニ付イテ、私ハ國務大臣、少クモ之ヲ代表スル人ニ、詳細ナル御説明ヲ承リタイ

○三田村甚三郎君(五十三番) 私モ望月君ト殆ド同様ノ質問デアリマスル、政府ハ先ニ地租增徵案ヲ出し、又家屋稅膏油稅ノ如キ惡稅ヲ見出スコトニ附イテノ、敏腕ナル手腕ヲ持ッテ居ルコトハ、實ニ感服ノ外ナイ、併ナガラ此家屋稅ノ如キハ、先ニ增徵サレマシタル此市街宅地稅ト關係ハ同ジモノダラウト私ハ考ヘテ居リマスル、即チ市街宅地稅ノ如キモノハ、此家屋ト市街宅地租ハ、市街ノ土地ナルモノガアツテ、初ノテ人間が住居スルニ足ルモノニアラウ、之ヲ分割シテ、一方ニ於テハ市街ノ宅地稅ヲ増徵シ、一方ニ於テハ家屋稅ヲ掛ケルト云フヤウナコトハ、甚ダ不當ノコトデアルノデアリマス、現ニ本員等ノ聞イテ居ル所ニ依シテハ、佛國ノ如キハ家屋及其土地ヲ併セテ、サウシテ此家屋稅ト云フモノヲ掛ケテ居ル、即チ家屋稅ヲ掛ケタモノニ對シテハ、別ニ市街ノ宅地稅ヲ取ラヌト云フコトヲ聞イテ居リマスル、

○議長(片岡健吉君) 二十七名ノ特別委員ヲ議長ガ選舉シテ、御異議アリマスマイカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス

果シテ斯様ナル家屋稅ヲ取ラナケレバナラヌト云フ必要ガアルナラバ、最モ公平ニ同ジナル性質ノ課稅物件ニ向ツテ、或ハ營業稅トシテ、或ハ家屋稅トシテ、或ハ市街宅地租トシテ、左様ナルツツニモ分ケテ、サウシテ之ヲ負ハセルト云フコトハ、甚ダ不當ノコトデアルト考ヘマス、政府ハ斯様ナル不當ノコトヲ爲シテ、尙ホ之ヲ以テ公平ヲ維持スルモノト信ジテ居ルヤ否ヤト云フコトヲ聽キタイ、モウ一ツハ、是ハ東京ノ如キ、大阪ノ如キ、其他ノ市街ニ於テ、家屋割ナルモノヲ取フテ、地方ノ財源ヲ維持シテ居ルト云フコトハ、今日ノ事實デアル、先キニ地租ヲ増徵シ、又是等ノモノニ向ツテ家屋稅ヲドンヽ掛ケタナラバ、地方ノ財源ヲ奪フト云フコトハ、明ナル事實デアル、左様ナルコトニ向ツテハ、一向政府ハ影響スル所ガナイト考ヘテ居ルカ、ソレ等ノ點ニ付イテハ、微細ニ承リタインデアル

○恵松隆慶君(九十七番) 私ハ質問終結ノ動議ヲ出シテ、贊成者ガ澤山ゴザイマシタガ、ドウデゴザイマス

○恵松隆慶君(九十七番) 「贊成々々ト呼フ者多シ」

○望月長夫君(十九番) 十九番ハ質問ヲ許サレタ以上ハ、答辯ヲ聽キタイ言ヲ求メテ居ルノニ、政府委員ニ許ストハ差支ナイデヤナイカ

(此時發言ヲ求ムル者多シ)

○星亨君(二百三十四番) 議長ハ不公平デアル、政府委員ガ出ナイ中ニ、發言ヲ求メテ居ルノニ、政府委員ニ許ストハ

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 然ラバ御協議ノ上、暫ク猶豫シテモ宜シウゴザイマス(恵松隆慶君「出ラレタナラ宜シイ、シツカリ御ヤリナサイ」ト呼フ)色モドウモ錯雜シテ、少シ聽取兼ネマシタガ、併ナガラ是ハ單獨ナ法律デアリマシテ、他ノ法律トサウ關係シタコトハナイノデアリマシテ、即チ家屋ト申シマスル其物體ニ掛ケテ往ク法律デアリマスカラ、決シテ彼此レノモノト關係ノナイモノデアリマス、尙ホ詳シイコトハ委員會デ申上げマセウカラ、成ラウナラバ其トキニ……

○恵松隆慶君(九十七番) 直チニ第一ノ日程ニ移ラレントコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 質問ハアルデゴザイマセウガ、議事日程第一ニ移リマス

○恵松隆慶君(九十七番) 此家屋稅ヲ掛ケラシウゴザイマスカラ、満場一致ヲ以テ御贊成アランタリモ、ドウヤラ贊成ラシウゴザイマスカラ、満場一致ヲ以テ御贊成アランコトヲ希望致シマス——早ク決ヲ採ラヌト、又異議ガ出マス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(片岡健吉君) 二十七名ノ特別委員ヲ議長ガ選舉シテ、御異議アリマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス

（四）

ニ調査ヲシタ方ガ宜イト思ヒマス、ドウカ直チニ第四ノ日程ニ移ラレンコトヲ希望致シマス
○議長(片岡健吉君) モウ格別質問モアリマスマイト思ヒマス、議事日程ノ第四特別委員ノ選舉ニ移リマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○恵松隆慶君(九十七番) 是ハ前ノ委員ニ付託セラレントヲ希望致シマス
〔贊成ケヤ」と呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 是ハ恵松隆慶君ノ動議ノ通、前ノ委員ニ付託致シマス
テ、御異議ハアリマスマイカ

〔異議ナシ異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通致シマス、議事日程第五國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル法律案第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第五 國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合(政府提出)

第一讀會

國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル法律案

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法明治二十九年法律第五十九號事業公債條例及明治二十九年法律第九十三號北海道鐵道敷設法ニ據ル公債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニハ外國貨幣ヲ以テ證書ノ金額ヲ記載シ其ノ證書ノ種類、元金ノ据置年限、募集、償還、利子ノ計算及仕拂ニ關スル方法其ノ他必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得但シ償還期限ハ公債募集ノ年ヨリ起算シ五十五年ヲ起ユルコトヲ得ス

○栗原亮一君(八十七番) 豫算委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ、退場ヲ致シマス

○議長(片岡健吉君) 豫算委員長カラ、此場合ニ豫算委員會ヲ開キタイト云
〔異議ナシ異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通致シマス
〔政府委員大藏省理財局長松尾臣善君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松尾臣善君) 本案ハ公債ヲ募集スルニ當リマシテ、經濟市場ノ形況ニ依リマシテハ、外國ニ於テ募集ヲスルコトヲ利便ト致シマスルトキニ、必要ヲ生ジマスル積デ、提出ヲ致シマシタ、現在ノ法規ハ、或ハ外國市場ノ状況ニ適シマセヌコトガゴザリマスルカラ、此除外例ヲ設クル積デゴザイマス、尤モ此案ハ第十二議會ニ提出致シマシテ、既ニ委員會ヲヘ可決シテ、本會ニ御報告ニナリマシタメニ、其儘ニナツテ居リマシタノデゴザイマス、ドウゾ御審議ノ上、御協賛アランコトヲ希望致シマス

○田中正造君(百十六番) 百十六番

○議長(片岡健吉君) 質問デスカ

○田中正造君(百十六番) サウ云フ案ヲ御出シニナルニ附イテ、考ヘテ見マ

スルト云フト、政府ハ大イニ財政ヲ整理シテ、此政費ヲ大イニ削減シテ、國家ノ經濟ヲ整理スルト云フヤウナ御考ハナインデゴザイマセウカ、今日ノ此大イニ財政ヲ外國ニマデ云々ト云フコトハ、申サバ必要ノナイノデアル、醬油稅ナリ、家屋稅ナリ、財政ヲ整理スレバ、何モ此稅ヲ課サナクテモ宜イノデアル、其上ニ唯今ノ案ト云フモノハ、政府ハ財政ヲ大イニ整理シテ、國家適當ノ此租稅等モ、負擔ニ堪ヘルヤウニスルト云フ宜ク酌量シテ、其度ニ適スル所ノ政治ヲ取ラナケレバナラヌノデアリマスガ、大藏省ニ於テハトウデゴザリマセウ、議場ハ斯ノ如ク増稅案ヲ家屋稅モ醬油稅モ、之ヲ笑ッテ議スト云フ今日ノ有様デアル、政府委員モ亦斯ノ如キ惡稅ノ法案ヲ提出致シテ居ッテ、議員ノ言動ヲ見テ、之ヲ馬鹿笑フシテ居リナガラ、此案が通過スルト云フ今日ノ此大腐敗ノ世ノ中デアルノデアル、故ニ大藏省ニハ之ヲ質問ラシテ置カナケレバナラヌ、財政ヲ整理スル見込ガナインデアルカ、大イニ財政ヲ革新スル見込ガナインデアルカ、ナイカアルカラ、聽イテ置カナケレバナラヌ、大藏省ハ意見ガナケレバナラヌ、大藏省ハ、他ノ官省ノ奴隸デハナイデアル

(政府委員大藏次官法學博士男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(田尻稻次郎君) 唯今田中君ノ御質問ハ、大藏省ニハ財政ヲ整理スル考ヲ持ツテ居ルカ持ツテ居ナイカト云フ御質問ノヤウデゴザイマスガ、無論アルノデゴザイマス、アリマスカラ斯ノ如ク心配シ、諸君ニモ斯ノ如ク御苦勞ヲ掛ケテ以テ、十分心配致シテ居ルノデアリマス、ドウゾコチラノ心配ヲ御助ケ下サルコトヲ希望致シマス

○田中正造君(百十六番) 答辯ニ最モ巧ナル所ノ田尻君ノ御言葉デゴザイマスカラ、如何ニモ其言フ所ヤ「自分ガ笑ッテ云フデハナイカ」ト云フ者アリ、其言フ所ハ實ニ甘イ、併ナガラ此眞實ニ——眞實ニ國家ヲ憂フルナラバ、何故此減ズベキモノヲ減シナイデアル、何故爲セバ爲シ得ルモノヲ何故シナインデアル、山林ノ泥棒ヲ何故押ヘナイノデアル、何故爲セバ爲シ得ルコトヲシナインデアル、見テ居ナガラ、此天下ノ岡山縣ヤ越後ヤ、其他ノ河川ノ打撃ハル、ノヲ何故見テ居ルノデアル、サウシテ年々歳々數百万圓ノ無用ノ土木費ヲ使フト云フコトヲ見テ居ルノデアル、何故大藏省ハ監督シテ之ヲヤカマシク言ハナインデアル、唯他ノ官省ノ奴隸トナツテ立ツト云フノガ、大藏省ノ本領デハナイ、何故已レノ本領ヲ守ラナインデアル、大イニ財政ヲ整理シ、大イニ財政ヲ革新スルト云フコトハ、口デ言フノデアツテ、本心ニ於テ其行ヲ見ナインデアルカラ、其行フ所ヲ行ヒ何故爲シ得ラルコトヲ何故シナイカ

(「恵松君ニ贊成」と呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) モウ質問モ大抵盡キタラウト思ヒマス、議事日程ノ第六ニ移リマス

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○恆松隆慶君(九十七番)此委員ハ九名ノ委員ヲ議長ノ指名ヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君)恆松隆慶君ノ動議ノ通、九名ノ委員ヲ議長ガ指名シテ
差支ナケレバ、指名致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君)次ハ議事日程第七、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第七 戎器火薬類取締法案(政府提出)

第一讀會

戎器火薬類取締法案

第一條 本法ニ於テ戎器ト稱スルハ銃砲刀劍及槍戟ノ類ヲ謂ヒ火薬類ト稱

スルハ火薬雷管導火線其ノ他爆發質物品ヲ謂フ

第二條 軍用銃砲及火薬類ハ官廳ノ委任ヲ受ケタル者ニアラサレハ製造又

ハ輸入スルコトヲ得ス但シ火薬商及官廳ノ特許ヲ受ケタル者ノ火薬類ノ

輸入ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 新奇發明ニ係ル軍用銃砲又ハ火薬類ヲ試験ノ爲製造セムトスル者

ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ特ニ海軍大臣ノ主管ニ係ルモノニ付テ

ハ海軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ試験製造ノ成績不良ナリト認ムルトキ又ハ廳府

縣長官ノ定メタル危害豫防ノ方法ヲ遵守セサルモノト認ムルトキハ何時

ニテモ試験製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四條 軍用銃砲ノ種類ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ特ニ海軍大臣ノ主管ニ係

ルモノニ付テハ海軍大臣之ヲ定ム

第五條 戎器製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ

戎器ノ修繕及研磨ヲ營業トスル者ハ戎器製造營業者ト看做ス

第六條 戎器商及火薬商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長官ノ許可ヲ受

クヘシ

第七條 火薬商及銃砲販賣ヲ營業トスル戎器商ノ廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ

務大臣之ヲ定ム

第八條 第五條及第六條ノ營業許可ヲ受ケタル者其ノ許可ノ日ヨリ六箇月

以内ニ開業セス又ハ開業後一箇年間休業シタルトキハ廳府縣長官ハ其ノ

許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 戎器製造營業者ハ其ノ製造改造ニ係ル銃砲ヲ銃砲販賣營業者以外

ノ者ニ賣渡シ讓渡シ交換シ又ハ贈與スルコトヲ得ス但シ官廳又ハ官廳ノ

特許ヲ得タル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 戎器火薬類ハ行商シ又ハ露店市場其ノ他屋外ニ於テ販賣スルコ

トヲ得ス

第十二條 警察官憲兵ハ必要ト認ムルトキハ何人ノ所有ヲ問ハス火薬類ノ

検査ヲ爲スコトヲ得

第十三條 内務大臣ハ公共ノ安寧ヲ保持スルニ必要ト認ムルトキハ期間及

地域ヲ限り戎器火薬類ノ授受運搬及携帶ヲ禁シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ警察官憲兵ハ必要ト認ムルトキハ戎器ノ検査ヲ爲シ又

ハ戎器火薬類ヲ領置スルコトヲ得

第十四條 第二條ニ違背シタル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十五條 第十三條第一項ノ命令ニ違背シタル者ハ一月以上一年以下ノ重

禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ物件ヲ沒收ス

第十六條 第五條又ハ第六條ノ許可ヲ受ケシテ營業ヲ爲シタル者及第九

條ノ停止命令ニ違背シテ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第十七條 第十條及第十一條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第十八條 左ノ事項ニ關シ取締上必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一 戎器及火薬類ノ貯藏運搬及其ノ他ノ取扱

第二 火薬類倉庫ノ位置及其ノ構造

第三 煙火燐寸爆發質玩弄品ノ製造販賣

四 火薬類ヲ要スル工業ニ關スル必要ナル事項

附則

第十九條 明治五年第二十八號布告銃砲取締規則及明治十七年第三十一號

布告火薬取締規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治十七年第三十二號布告爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラ

ルコトナシ

(政府委員内務省警保局長小倉久君演壇ニ登ル)

○政府委員(小倉久君) 本案ヲ提出致シマシタル理由ハ、既ニ理由書ニ明細書イテアリマスル通テゴザイマシテ、現今ノ銃砲取締規則ハ明治五年ノ制定ニ係リ、又火薬取締規則ハ明治十七年ノ制定ニ係ルモノデゴザイマスガ、其

銃砲ト云ヒ火薬ト云ヒ、其種類ハ益々今日ハ新発明モアリマシテ、數モ殖エテ参リマシタ、銃砲ノ需要火薬ノ需用モ日々増エテ参リマシテ、其之ヲ販賣致シマスル人ノ數モ限ッテアリマスノデ今日ノ場合デハ需要ニ應ジ切レヌ

ト云フコトモゴザイマス、又銃砲取締規則ト云フ名ノ下ニ、同ジク危險ノ器具アル所ノ刀劍槍戟ノ如キハ這入テ居リマセヌガ、是亦等シク危險ナ器物デゴザイマスカラ、之ガ取締ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ理由デゴザイマシテ、共ニ十七年ノ規則五年ノ規則ヲ併セマシテ、茲ニ改正ヲ致シマシタ譯デゴザリマス、因テ必要ニ追シテ改正ヲ致シタ譯デゴザイマスカラ、御賛成ヲ願ヒマス

○早川龍介君(二十七番) 簡單ナ質問デゴザイマス、唯今ノ御辯明ニ依リマスト、尙ホ理由書ニ依リマシテモ、詰リ段々需用者ガ殖エテ販賣者ガ少ナイ

ト云フ譯カラ、増スト云フガ一番ノ目的デスカ

○政府委員(小倉久君) 増スト云フ目的モアリマス

○早川龍介君(二十七番) サウシマスルト、此法案デハ是マデ銃砲火薬ヲ兼

業シテ居リマス者ト、火薬單獨ニナツテ居ル者トガアル、ソレ等ノ者ヲ皆併テ、一ノ營業者ニ皆販賣サセヤウト云フ御考デスカ、或ハ一種類デモ商賣人ガ自分自ラ望ンデヤレバ、單獨ナ業デモ出來ルノデスカ

○政府委員(小倉久君) ソレハ出來ル積テス

○早川龍介君(二十七番) サウシマスルト、是マデ火薬ト云フ商賣ヲシテ居ル者ニ併セテ戎器モヤラセルト云フコトニナツテ、詰リ人員ガ澤山増ス云

フヤウナコトニナツテ來ル割合が起ル譯デスカ

○政府委員(小倉久君) ハイ、人モ増ス譯デス

○早川龍介君(二十七番) 前ノ前々デゴザイマシタカ、戎器ノ取締、即チ仕

込杖刀劍ト云フモノハ、別ニ取締ガ設ケテアリマシタガ、ソレ等モ一括スル

譯デアリマスカ

○政府委員(小倉久君) 一括シテシマフ譯デス、是マデ仕込杖ハ別ニ法律ハ

ゴザイマセヌ、ソレ等モ今度ハ一括シテ、戎器火薬ト云フモノ、中へ入レル

積デス

○恒松隆慶君(九十七番) 此案ハ斯ノ如キ長イ理由書ガ書イテアリマスカ

ラ質問ハヨシニシテ、次ノ日程ハ委員ニ付託セラレントコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 第八特別委員ノ選舉ニ移リマス

第八 右議案ノ審査ヲ附託スヘキ特別委員ノ選舉

○恒松隆慶君(九十七番) 委員ノ數ハ九名トシテ、議長ノ指名ヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 九名ノ委員ヲ議長ガ指名シテ御異議ハアリマスマイカ

ス
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通ニ決シマス

○關信之介君(六番) 是ヨリ新聞紙改正法案ノ委員會ヲ聞キタウゴザイマス

カラ、退席ヲ求メマス

○議長(片岡健吉君) 關信之介君カラ、新聞紙法案ノ委員會ヲ聞キタイト云

フコトニアリマスガ、退席ヲ許シテ御異議ハゴザイマスマイカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 然ラバ、許スコトニ致シマス、次ハ議事日程ノ第九ニ

移リマス、臺灣總督府法院ノ裁判權ニ關スル法律案ノ

第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第九 臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ裁判 第一讀會

權ニ關スル法律案(政府提出)

臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ裁判權ニ關スル法律案

第一條 臺灣總督府法院ニ於テ民事訴訟法、刑事訴訟法ニ依リ爲シテ

ル第二審ノ終局判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第二條 大審院ニ於テ上告ニ因リ臺灣總督府法院ノ判決ヲ破毀シタル

トキハ自カラ裁判ヲ爲ス場合ヲ除ク外更ニ辯論及裁判ヲ爲サシムル爲其事件ヲ原法院ニ差戻スヘシ

第三條 臺灣總督府法院ニ於テ刑事訴訟法ニ依リ爲シタル確定判決ニ非常

上告ノ原由アルトキハ大審院檢事ハ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得
第四條 民事ニ關シ大審院ニ於テ爲シタル判決ニ再審ノ原由アルトキハ再審ヲ求ムルコトヲ得

第五條 刑事訴訟法ニ依リ爲シタル判決ニ再審ノ原由アルトキハ大審院ニ

其ノ訴ヲ爲スコトヲ得
再審ノ訴ニ因リ大審院ニ於テ原判決ヲ破毀シタルトキハ其ノ事件ヲ原法

院ニ差戻スヘシ

第六條 民事ニ關シ大審院ニ於テ事件ニ付爲シタル判決ノ執行ハ臺灣總督

府法院ノ判決ノ執行ト同一ノ手續ニ依ル

第七條 刑事ニ關シ大審院ニ於テ爲シタル判決ノ執行ハ刑事訴訟法ノ規定

ニ準シ檢事總長其ノ指揮ヲ爲スヘシ

前項ノ判決ノ執行ハ臺灣總督府法院ノ判決ノ執行ト同一ノ手續ニ依ル

第八條 民事訴訟法、刑事訴訟法及其ノ附屬法中上告非常上告及再審ニ關

スル規定ハ本法ニ定メタル上告非常上告及再審ニ付之ヲ準用ス

○恒松隆慶君(九十七番) 政府委員ノ説明ハゴザイマセヌカ、委員付託希望

デス

(政府委員臺灣總督府民政長官後藤新平君演壇ニ登ル)

○政府委員(後藤新平君) 本案ニハ臺灣ノ法院條例ヲ以テ規定致シマシタ、

裁判所ノ構成ハ、臺灣ノ實況ニ照シテ、必要ノ程度ニ基イテ、二級審ノ、裁判

ト致シマシタノアリマスガ、即チ地方法院覆審院法院ニアリマス、併ナガラ

此訴訟ハ事實ノ覆審ニ依リテ、判決ノ終局ト致シマシタモノニアリマスカラ、

尙ホ進シテ此裁判ノ法律ニ適合スルヤ否ヤト云フ審理ヲスル機關ガナイトキ

ハ、其活動ヲ全ウスルト云フコトガ出來ヌト云フ所カラシテ、此法律ノ適用

ヲ統一スルコトヲ計ルガタメニ、大審院トノ結合ヲサセタイト云フ趣意ニ出

以テ唯一ノ上告裁判所トシヤウト云フ見込ヲ以テ、提出致シマシタモノニアリ

マス、而シテ之ヲ提出致シマシタ所ノ案ニ依リマスト云フト、其内容ニ

至テハ民事訴訟法及刑事訴訟法ノ適用ヲ受クル人、及其事件附イニテ臺灣

覆審法院ノ爲シタル第二審ノ終審判決ニ對シテ、上告ヲ爲サシムル趣意ニアリマス、是ハ理由書ニモ其大要ハ書イテアリマス、唯簡單ニ此コトヲ申シテ

置キマス

○花井卓藏君(二百四十一番) 質問ガアリマス、大審院ハ裁判官ノ爲シタル

裁判ニ對スル上告ヲ判決スル法院、而シテ、臺灣ニ於ケル裁判官ト云フモノ

ハ、憲法ノ保障ノアル裁判官デハナイト云フノデ、曾テ政府ハ高野孟矩ニ對

シテ、非職ノ問題ヲ提出シタルコトガアル、即チ高野孟矩ヲ一個ノ行政官、即

チ憲法上ノ裁判官デナイト云フコトヲ以テ、非職ヲ命ジタルコトガアル、然ル

ニ此法案ノ如クニ致シマスルト、行政官ガ裁判ノ眞似ヲ爲シタルモノニ對シ

テ、大審院ガ判決ヲスルト云フコトニナル、行政官ガ裁判ノ眞似ヲシ、ソレニ

シタル裁判ニ對シ、上告セシムルヲ以テ趣意トスル大審院ノ權限ニ觸ルト

アリマスガ、三箇年間ニ於キマシテノ高等法院ノ數ト云フモノハ、極僅ナモノデアリマス、其僅ナモノ、タメニ、三万五六千圓ノモノヲ費シテ居リマス、ソレ故ニ臺灣ノ經費ヲ節減スルト云フ上カラ、是ダケノ高等法院ノ設置スル必要ガナイト云フ上カラガ、第一廢シマシタル要點ニナツテ居リマス、ソレカラ第二ハ、此理由書ニモ書イテアリマスル通ニ、即チ法律ノ統一、アチラニモ御承知ノ民法——或部分ニ向ツテハ、民法商法民刑訴訟法總テ行レテ居リマス、其解釋ノ統一ヲ完ウスルニ附キマシテハ、アツチニハ高等法院ガアリ、内地ニハ大審院ガアツテ、同じ法律ノ解釋ガ一樣ニ出ルト云フコトニナツテハ、立法ノ上ニ附イテ面白クナイト云フ上カラシテ、旁々大審院ニ結附ケタナラバ、法律ノ統一モ計ラレルト云フ所カラ、出テ來タノデアリマス、ソレデ實際ノ經費其他ノ關係、ソレト實際ノ理窟ノ上ノ法律ノ統一ト云フ所カラ、廢シマシタノデ、ソレカラ第二ノ御問ニナルト、ナゼ高等法院ヲ設ケヌカ、且ツ三審法院ニスルナラ、ナゼ高等法院ヲ設ケナイカト云フ御問ニ對シマシテハ、唯今答ヘマシタ高等法院ヲ廢シタト云フ理由デ、御答ガ出来テ居ラウト思ヒマス

○野間五造君(百九十八番) 三万圓ノ御減額ニナリマシタ……
○議長(片岡健吉君) 議長ノ許可ヲ得テ……
○野間五造君(百九十八番) 議長、百九十八番

○議長(片岡健吉君) 百九十八番
○野間五造君(百九十八番) 三万圓ノ御減額ト云フ御話ガアツタガ、大變誤解デナイカト思フ、ソレハ臺灣ニハ重罪ガ多イノデ、死刑ニ處セラル、モノハ、何百人カラアル、之ヲ大審院ヘ持ツテ來ルハ極シテ居ル、然ルニ今日マデノ大審院デ事務ガ澁滞シテ居ル、監獄ノ費用モ殖エルデアラウシ、民事ノタメニ往復スル費用時間ト云フモノモ少カラヌコトニナルト思フ、サウスレバ三万圓ヤ五万圓ノコトハ、厭ハナイ結果ニナリハスマイカト思フガ、唯單ニ貨幣ノ理由カラ、サウスルノハ、甚ダ薄弱カト思ヒマスガ、其點ヲ御説明ヲ願ヒマス

○野間五造君(百九十八番) 三万圓ノ御減額ト云フ御話ガアツタガ、大變誤解デナイカト思フ、ソレハ臺灣ニハ重罪ガ多イノデ、死刑ニ處セラル、モノハ、何百人カラアル、之ヲ大審院ヘ持ツテ來ルハ極シテ居ル、然ルニ今日マデノ大審院デ事務ガ澁滞シテ居ル、監獄ノ費用モ殖エルデアラウシ、民事ノタメニ往復スル費用時間ト云フモノモ少カラヌコトニナルト思フ、サウスレバ三万圓ヤ五万圓ノコトハ、厭ハナイ結果ニナリハスマイカト思フガ、唯單ニ貨幣ノ理由カラ、サウスルノハ、甚ダ薄弱カト思ヒマスガ、其點ヲ御説明ヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 賛成キト呼フ者アリ
○議長(片岡健吉君) 九名ノ委員ヲ指名致シテ御異議ガナカケレバ、其通致シマス
○恆松隆慶君(九十七番) 委員ハ九名デ、議長ノ指名デ願ヒマス
○議長(片岡健吉君) 次ニ議事日程第十一不動産登記法ノ第一讀會ヲ開キマス、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

○議長(片岡健吉君) 第十一不動産登記法案(政府提出)
第一讀會 不動産登記法案
第一讀會 第十一不動産登記法案(政府提出)

第十右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
ノ選舉ニ移リマス

○議長(片岡健吉君) 「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ
○議長(片岡健吉君) 次ニ議事日程第十一不動産登記法ノ第一讀會ヲ開キマス、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第一讀會

不動産登記法
第一章 總則
第二章 登記所及ヒ登記官吏
第三章 登記ニ關スル帳簿
第四章 登記手續

第一章 總則
第二節 所有權ニ關スル登記手續
第三節 所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續
第四節 撤消ニ關スル登記手續
第五章 抗告
附則

不動產登記法
第一章 總則

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動產ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

一 所有權
二 地上權

三 永小作權
四 地役權
五 先取特權
六 質權
七 抵當權
八 賃借權

假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス
一 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

二 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
一 二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セ

○恒松隆慶君(九十七番) 質問ハモウ廢シマシテ、次ノ日程ニ移ルコトヲ希望致シマス

右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其後將來ニ於テ確定ス

ヘキモノナルトキ亦同シ
第三條 豫告登記ハ登記原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ

訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テ

ハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ对抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第四條 詐欺又ハ强迫ニ因リテ登記ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登記ノ欠缺

ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條 他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主張スル

コトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登記ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ

此限ニ在ラス

第六條 同一ノ不動産ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付キ法律ニ別段ノ

定ナキトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ル

第七條 附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位ハ其前

後ニ依ル

假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ニ依ル

第二章 登記所及ヒ登記官吏

第八條 登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又

ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動産カ數個ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セテ管轄

スル直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ヲ指定ス

第九條 町村其他登記簿ヲ分設シタル區畫カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所

ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其區畫ニ關スル登記簿及ヒ其附屬

書類ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス

一個又ハ數個ノ不動産ノ所在地カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ

轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ附屬書

類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス但登記簿ノ謄本ニハ抹消

ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シ其不動産ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十條 登記所ニ於テ其事務ヲ停止セサルコトヲ得サル事故ノ生シタルト

キハ司法大臣ハ一个月ヲ超エサル期間其停止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 登記所ハ土地ニ付キ所有權ノ移轉又ハ質權ノ設定移轉若クハ

消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スル

コトヲ要ス未登記ノ土地ニ付キ所有權ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

土地臺帳所管廳ハ土地ノ分合滅失段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目字番

號ノ變更アリタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

ス但親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ調書ヲ作リ立會人ト共ニ之ニ署名捺印

スルコトヲ要ス

第十三條 登記官吏カ其職務ノ執行ニ付キ申請人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタ

ルトキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

第三章 登記ニ關スル帳簿

第十四條 登記簿ハ土地登記簿及ヒ建物登記簿ノ二種トス

各種ノ登記簿ハ市ニ付テハ從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲シ町村ニ付テハ町

村每ニ別冊ト爲ス但登記事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ

從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第十五條 登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付キ一用紙ヲ備フ

同一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動産カ登記簿ヲ分設シタル數個ノ區畫ニ

跨カルトキハ其一個ノ區畫ニ登記簿ニノミ其不動產ニ關スル用紙ヲ備フ

第十六條 土地登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄表題部及ヒ甲乙丙丁戊ノ五區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各土地ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ土地ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

欄ヲ設ク

第十七條 建物登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及ヒ附屬建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十八條 登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ク

第二十條 登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セヌ又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ提出スルコトヲ要ス

第四十一條 登記原因カ相續ナルトキハ申請書ニ相續ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十二條 申請人カ登記権利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十三條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十四條 登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證カ滅失シタルトキハ申請書ニ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者一人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面ニ通ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十五條 申請書ニ第三者ノ許可同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數個ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

申請人ノ氏名受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

申請書其他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ之ヲ申請人ニ交付スルコトヲ要ス

第四十八條 登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 登記官吏ハ左ノ場合ニ限り理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請ノ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十条 登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ノ目的タル権利ノ表示カ登記簿ト抵觸スルトキ

第五十一条 申請書ニ掲ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル権利ノ表示カ登記簿六 第四十二条ニ掲ケタル書面ヲ提出シタル場合ヲ除ク外申請書ニ掲ケタル登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セサルトキ

第七条 申請書ニ掲ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ

第八条 申請書ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ添附セサルトキ

第九条 登錄稅ヲ納付セサルトキ

第五十二条 表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記権利者ノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三条 申請書ニ掲ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記

官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十四条 假登記ノ順位番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十五条 假登記ヲ爲シタル後本登記ノ申請アリタルトキハ假登記ノ左側ノ餘白ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六条 権利ノ變更ノ登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ勝本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテ其登記ヲ爲ス

第五十七条 権利ノ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ変更シタルモノト看做スルコトヲ要ス

第五十八条 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス前項ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十九條 行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做スルコトヲ要ス

第六十条 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記権利者ニ還付スルコトヲ要ス

第六十一条 申請書ニ添附シタル登記濟證又ハ第四十四条ニ掲ケタル書面ノ一通ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號登記権利者ノ氏名、住所、登記原因其日附登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記義務者ニ還付スルコトヲ要ス但登記名義人カ多數ナル場合ニ於テ其一部カ登記義務者ナルトキハ登記権利者ニ還付スルコトヲ要ス

第六十二条 不動産ノ表示登記原因其日附、登記権利者ノ氏名、住所ヲモ記載スルコトヲ要ス

第六十三条 前項ノ場合ニ於テ登記権利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ添附シタル登記濟證又ハ第四十四条ニ掲ケタル書面ノ一通ニハ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十四条 第四十四条ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ不動産ノ表示登記原因其日附、登記権利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ登記義務者又ハ其一人ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五条 官廳又ハ公署カ登記権利者ノ爲メニ登記ヲ囑託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ登記権利

者ニ交付スルコトヲ要ス
第六十三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遗漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十四條 第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ證本ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條 登記回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ回復スルトキハ回復ノ登記ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登記ト同一ノ登記ヲ爲シ若シ或登記事項ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十七條 第九條第二項ノ場合ニ於テ乙登記所ハ移送ヲ受ケタル登記簿ノ證本ニ依リ相當登記區畫ノ登記簿ニ登記ヲ移スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移スルトキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ニ從ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ

前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ登記簿ノ證本ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第六十八條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ一個又ハ數個ノ不動產ノ所在地カ甲登記區畫ヨリ乙登記區畫ニ轉屬シタルトキハ登記所ハ乙登記區畫ノ登記簿ニ其不動產ニ關スル登記ヲ移スルコトヲ要ス

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第六十九條 第二十三條ノ場合ニ於テハ登記權利者ノミニテ登記ノ回復ヲ申請スルコトヲ得

第七十條 前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ前登記ノ順位番號、申請書受附ノ年月日受附番號ヲ記載シ前登記ノ登記濟證ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十一條 第六十九條ノ申請アリタル場合ニ於テハ申請書ニ前登記ノ順位番號、申請書受附ノ年月日受附番號ヲ記載シ前登記ノ登記濟證ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十二條 第二十三條ノ規定ニ依リテ定期間中新登記ノ申請アリ用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ爲シ相當區順位番號欄ニ前登記ノ番號ヲ記載シ事項欄ニ前登記ノ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十三條 假設登記簿ニ爲シタル登記ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ定期間中新登記ノ申請アリ用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ爲シ相當區順位番號欄ニ前登記ノ番號ヲ記載シ事項欄ニ前登記ノ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

タル期間満了ノ後遲滞ナク之ヲ登記簿ニ移スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ假設登記簿ニ於ケル登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス
第六十七條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ其不動產ニ關スル假設登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第七十四條 假設登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於テ回復シタル登記アルトキハ新登記ノ順位番號欄ニハ回復シタル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條 假設登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ當事者ニ對シ之ニ本登記濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ回復シタル登記ト假設登記簿ヨリ移シタル登記ト抵觸スルトキハ同時ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス
當事者カ登記濟證ヲ申請スル場合ニ於テハ假設登記簿ニ於ケル登記ノ登記濟證ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ申請アリタルトキハ第六十條ノ規定ヲ準用ス
第七十六條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登記番號欄ニ前用紙ノ登記番號ヲ轉寫シ前用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號欄ニ新用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前用紙中表題部又ハ他ノ區ニ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スルコトヲ要ス
第七十七條 登記ヲ爲シ又ハ申請書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫金錢其他ノ物ノ數量、年月日及ヒ番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用井ルコトヲ要ス

第二節 所有權ニ關スル登記手續
第七十八條 所有權ノ一部移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其部分ノ表示ヲ爲シ登記原因ニ民法第二百五十六條第一項但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十九條 土地ノ分合滅失、段別若クハ坪數竝ニ現在ノ段別若クハ番號ヲ記載シ又ハ新地目、新字若クハ新番號ヲ記載スルコトヲ要ス
號ノ變更アリタルトキハ其土地ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ土地ノ分合滅失若クハ增減シタル段別若クハ坪數竝ニ現在ノ段別若クハ番號ヲ記載シ又ハ新地目、新字若クハ新番號ヲ記載スルコトヲ要ス
數ヲ記載スル場合ニ於テハ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ

得ヘキ裁判ノ暨本ヲ添附スルコトヲ要ス

乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

外ノ権利ニ關スル登記中ニ甲地ト共ニ其権利ノ目的タル旨申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニリ乙地ノ登記用紙ニ別有權以外ノ権利ニ關スル登記ト
轉寫シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ乙地ト共ニ其
權利ノ目的タル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ乙地ニ關シ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ勝本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記ス

ルコトヲ要ス
第八十四條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ乙地ノミ
カ所有權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙地ノ登記用紙中相當量事項闇ニ

其権利印スル登記ヲ移シ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地ノ登記用紙中所有權以外ノ権利ニ關スル登記ニ
乙地ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其登記ヲ
朱抹スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ勝本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記シ其登記ヲ朱

第八十五條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合併ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示額ニ合併ニ因リテ登記可虎ヨリス

登記用紙ノ甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ
前項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ
移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ其登記が合併シタル部分ノミニ關スル旨申
請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス
甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記

用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ合併シタル部分ノミカ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十二條第二項、第八十三條第二項、第三項及ヒ前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲建物ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割又ハ區分ニ因リテ他ノ部分ノ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但分割又ハ區分シタル附屬建物ノミニ關スル表示番號アルトキハ其番號ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第九十五條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ノ附屬建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ乙建物ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十六條 第八十三條及ヒ第八十四條ノ規定ハ第九十四條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十三條ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ分割又ハ區分ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十七條 第八十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ第九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十五條第二項乃至第四項ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ合併ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十八條 甲建物ヲ乙建物又ハ其附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テハ第八十六條及ヒ第八十七條ノ規定ヲ準用ス但甲建物ヲ乙建物ノ附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テハ乙建物ノ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要セス

第九十九條 第八十八條ノ規定ハ建物又ハ附屬建物ノ建坪ノ増減ノ登記ニ之ヲ準用ス

附屬建物ノ新築ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ附屬建物ノ種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百條 第八十九條ノ規定ハ建物ノ番號ノ變更又ハ建物若クハ附屬建物ノ構造ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十八條 及ヒ第八十九條ノ規定ハ建物ノ敷地ノ地目、字若クハ番號ノ變更又ハ段別若クハ坪數ノ増減ノ登記ニ之ヲ準用ス

第一百一條 不動產ノ滅失ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ滅失ノ原因ヲ記載シ不動產ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第一百二條 前條ノ場合ニ於テ滅失シタル不動產カ他ノ不動產ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タリントキハ他ノ不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ滅失シタル不動產ノ表示ヲ爲シ滅失ノ原因及ヒ其不動產ノ滅失シタルコトヲ附記シ其不動產ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中滅失シタル不動產ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス他ノ不動產ノ所在地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク前項ノ登記ヲ爲スニ關スルコトヲ要ス

第一百三條 土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタル場合ニ於テ舊所有者カ買戻權ヲ有スル旨ヲ記載シ補償金ノ受取證又ハ預證ヲ添附スルコトヲ要ス

第一百四條 不動產ヲ華族世襲財產ノ創設ノ登記ヲ登記所ニ嘱託スルコトヲ要スハ遲滯ナク世襲財產ト爲スコトヲ認可シタルトキハ當該官廳ノ登記所ニ嘱託スルコトヲ要ス

第一百五條 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一 土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

三 既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタルヲ證スル者

四 判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第一百七條 第二條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ第一百五條第何號又ハ前條第何號ニ依リテ登記ヲ申請スル旨ヲ記載シ必要ナル證明書類ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス但登記原因及ヒ其日附テ記載シ又ハ第三十五條第二號乃至第四號ニ掲ケタル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第一百八條 未登記ノ不動產所有權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百九條 第百二十八條及ヒ第一百二十九條ノ規定ハ未登記ノ不動產所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第一百十條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動產所有權ノ登記ヲ登記所ニ嘱託スル場合ニ於テハ第一百五條又ハ第一百六條ノ規定ニ依リテ證明ヲ爲スコトヲ要セス

第一百十一條 地上權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ地上權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、地代又ハ其支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百十二條 永小作權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ小作料ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、小作料ノ支拂時期其他永小作人ノ權利若クハ義務ニ關スル特約又ハ民法第二百七十二條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百三十三条 地役権ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ要役地ノ表示ヲ爲シ地役権設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ民法第二百八十一條第一項但書、第二百八十五條第一項但書又ハ第二百八十六條ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百四條 地役権ノ設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ要役地タル不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ承役地タル不動産ノ表示ヲ爲シ其不動産カ地役権ノ目的タル旨、地役権設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載スルコトヲ要ス。

要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク其登記所ニ承役地、要役地、地役権設定ノ目的並ニ範圍及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スルコトヲ要ス。

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク要役地タル不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百五條 先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス。但不動產工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其工事費用ノ豫算額ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百六條 質權ノ設定又ハ轉質ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、違約金若クハ賠償額ノ定アルトキ、債權二條件ヲ附シタルトキ、民法第二百四十六條但書ノ定アルトキ、第三百五十六條若クハ第三百五十七條ノ規定ニ異ナリタル定アルトキ又ハ第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百七條 抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百八條 先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權二條件ヲ附シタルトキ又ハ其發生期若クハ支拂時期ノ定アルトキ、債權二條件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百九條 質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス。

第一百二十條 一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百二十一條 官吏又ハ公吏ノ身元保證ヲ目的トスル抵當權ノ設定ノ登記ハ囑託書ニ其官吏又ハ公吏カ差出シタル登記請求書ヲ添附シテ當該官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス。

第一百二十二条 數個ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ各不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス。

第一百二十三条 債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因リテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百二十四條 第百二十二條ノ規定ニ從ヒテ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ其一個ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ他ノ不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其權利カ共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百二十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス。

第一百二十六條 敷個ノ不動產ニ關スル權利カ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其一個ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ノ表示ヲ爲シ且其權利ノ變更又ハ消滅シタル旨ヲ附記シ第百二十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記中變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス其一個ノ不動產ニ關スル權利ノ表示ニ付キ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ。

第一百二十四條 第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス。

第一百二十七條 貸借權ノ設定又ハ賃借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ借賃ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ借賃ノ支拂時期定ノアルトキ又ハ賃借權ノ移轉若クハ賃借物ノ轉貸ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ賃借權ヲ爲ス者カ處分ノ能力若クハ權限ヲ有セサル者ナルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百二十八條 未登記ノ不動產ノ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得。賃借權ノ移轉又ハ賃借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ賃貸人ノ承諾書ヲ添附スルコトヲ要ス。

第一百二十九條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ爲シ且甲區事項欄ニ所有者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百三十條 未登記ノ不動產ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得。

第一百三十一條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何權利ヲ目的トスル何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス。

第一百三十二条 既登記ノ不動產ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者

ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
第百三十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

コトヲ要ス

第百三十四條 前四條ノ規定ハ所有權以外ノ權利又ハ其權利ヲ目的トスル

權利ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百三十五條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動產ニ付キ所有權以外ノ權利若クハ其權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動產ニ付キ未

登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其權利ヲ證スルコトヲ要セス

第百三十六條 建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ設計書ニ定メタル其建物ノ種類構造建

坪、建物ヲ新築スヘキ郡市區町村字土地ノ番號及ヒ工事費用ノ豫算額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載シ設計書及ヒ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百三十七條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ新築スヘキ建物ノ表示ヲ爲シ且其

建物ノ種類構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名住所及ヒ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲スニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十八條 既登記ノ主タル建物ノ附屬建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ新築スヘキ附屬建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十九條 建物ヲ新築スルニ付キ不動產工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ建築カ終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滯ナク所有權ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス但第百六條及ヒ第百七條ノ適用ヲ妨ケス

第百四十條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ更ニ建物ノ表示ヲ爲シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但前條第一項ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ不動產工事ノ先取特權ノ保存ニ關シテ甲區事項欄ニ爲シタル登記ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第四節 抹消ニ關スル登記手續

第百四十一條 登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其死亡ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ添附スルトキ

ハ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十二條 登記權利者カ登記義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ

登記ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其謄本ヲ添附シ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十三條 華族世襲財產ノ解除ヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十四條 假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十五條 第三條ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若クハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ訴ノ取下アリタルトキ請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付キ和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若クハ抄本又ハ訴ノ取下請求ノ拋棄若クハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百四十六條 登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第百四十七條 登記ヲ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スヘキ登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第百四十八條 第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滞納處分ニ關スル差押ノ登記ヲキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百四十九條 第百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請又ハ囑託アリタル場合ニ於テ其不動產ノ登記用紙中所有權以外ノ權利ニ關スル差出シテ之ヲ爲ス

第百五十條 登記官吏ノ決定又ハ處分ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百五十一條 抗告ハ登記所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第百五十二條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其憑據ト爲スコトヲ得ス

第百五十三條 登記官吏カ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ三日內ニ意見ヲ附

シテ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス
登記官吏カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第一百五十四条 抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス
抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第一百五十五条 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス
抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ證本ヲ送達スルコトヲ要ス

第一百五十六条 抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス
第一百五十七条 登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ストキハ命令ヲ爲シタル裁判所命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第一百五十八条 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得
第一百五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

附 則

第一百六十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第一百六十一條 明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第一百六十二条 明治六年第十八號布告地所質入書入規則又ハ同年第百四十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年内ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ
前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル
第一項ニ定メタル登記ニ關スル手續ハ司法大臣之ヲ定ム
第一百六十三条 本法施行前ニ登記シタル不動產ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙ノ登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙ニ移シタル番號及ヒ事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス
新登記簿ノ用紙ニ移シタル番號及ヒ事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

○議長(片岡健吉君) 政府委員倉富第三郎君
(政府委員司法省民刑局長倉富第三郎君演壇ニ登ル)
○政府委員(倉富第三郎君) 民法ハ昨年ノ七月以來施行サレテ居リマスガ、不動產登記法が今日マデ法律ニナリマセヌタメニ、民法施行ノ完全ナル效果ヲ收メルコトガ出來ナイノデアリマス、就キマシテハ民法ノ規定ト一致セシ

ムルタメニ、此度此法案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、此法案ハ前期ノ議會ニ提出致シマシタモノニアリマスガ、精々法律ノ完美ヲ計リマヌタメニ、其後再三ノ調査ヲ遂ゲマシテ、多少前期ニ提出致シマシタモノニ修正ヲ加ヘタ點ガゴザリマス、ドウカ速ニ決議セラレンコトヲ希望致シマス
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガアリマセヌケレバ、議事日程第十二特別委員ノ選舉ニ移リマス

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
○恵松隆慶君(九十七番) 九名ノ委員ヲ議長指名デ願ヒマス
○議長(片岡健吉君) 九名ノ委員ヲ議長ガ指名シテ、異議ハアリマセヌカ
〔異議ナン〕ト呼フ者アリ
○議長(片岡健吉君) 然ラバ、其通致シマス、次ハ議事日程第十三醫師會法案第一讀會ノ續、委員長島田三郎君
○島田三郎君(二百五十番) 理事ノ鈴木君ニ代ツテ報告ヲ願ヒマス
(鈴木萬次郎君演壇ニ登ル)
○鈴木萬次郎君(百六十七番) 諸君、都合ニ依リマシテ委員長ノ島田君ニ代リマシテ、私カラ委員會ノ經過ヲ御報道致シマス、昨年ノ十二月十九日ニ委員長理事ノ互選ヲ致シテ、島田三郎君ガ委員長ニ、不肖私が理事ニ當選致シマシタ、其後同シク二十二日ニ開會致シマシタ、各員カラ種々ナル質問ガゴザイマシテ、其質問ノコトナルモノヲ申上ゲマスレバ、此法案ノ成立シタ曉、全國ノ醫師ヲ見渡セバ、漢法醫師ガ三分ノ二ヲ占メテ居ルト云フ有様デアル、若シ會議等ヲ開イテ、之ヲ漢法醫杯ガ勢力ヲ得テ、總テノ醫事衛生ニ關スルコト、及醫師全體ニ關スルコトヲ決議スルト云フコトハアリハセヌカト云フ質問モゴザイマシタ、是ニ就キマシテハ宜イ御答辯ノ例ガアリマス、全國ニ於キマシテ漢醫ノ最モ多數ニアリ有力デアルハ、熊本縣ニアリマスガ、此熊本縣ノ醫師組合醫會會長ハ、學士ノ何トカ云フ人デ、何某ガ醫師會長ニナツテ居ルカラ、サウ云フコトデ分ルト云フ答デゴザイマシタ、ソレカラ第二ニハ此法案が成立シタ以上ハ、東京ノ醫師ガ東京ノ醫師會ニ這入ツテ居テ、他縣ニ出張シテ診察スルコトハ差支ナイカト云フコトデアリマシタガ、是ハ東京組合ノ辯護士ニ於テ、大阪或ハ京都ニ行ツテ辯護ヲ致ソレト同ジコトデ、矢張東京ノ醫師ガ各地ニ行ツテ診察ヲ託サレテ、診察ヲスルト云フコトハ、一向此法案ニ於テハ差支ナイト云フ答デゴザイマシタ、ソレカラ第三ニハ此法文中ニ外國醫ノ來ツテ營業スル場合云々ト云フコトコトノ規定ガナリ、法案ノ理由書ニモ、内地雜居云々、外國醫ノ來ツテ開業スル場合云々ト云フコトガアルガ、法文ニハ明記シテナインハドウカト云フ御質問デゴザイマシタガ、是ハ醫會規約規則ト云フヤウナモノニ規定致シマスルノデ、殊更ニ此法文中ニ外國人云々ト云フコトヲ掲ゲルノ必要ハナカラウト云フ御答デアリマシタ、ソレカラ或ハ病院ニ關スル規定ト云フコトニ附イテ、質問ガアリマシタガ、是等モ矢張醫師會會則ニ這入ルベキモノデ、此法文中ニ病院ト云フコトヲ明記致シマスル必要ハナイト云フ答デアリマシタ、此

毛細カイ御質問ヲナサレタノデゴザイマス、同日ハ質問ダケデゴザイマシテ、其翌二十四日ニ再び開會ヲ致シマシタ、委員中ノ山口熊野君渡邊君吉岡君等カラ、修正説ガ出マシテ、今御手許ニ回ツテ居リマス如ク修正ヲ致シマシタ、即チ此法案ニ於テ不備ノ點ヲ補フタメニ、修正案トシテ御提出ニナリマシタ、此トキ丁度島田委員長ハ外ニモ委員會ガアルト云フコトデ、御闕席ニナリマシテ、不省私ガ代リマシテ此會ヲ引續キマシタガ、他ノ委員ハ悉ク八名ノ委員ハ一致賛成デゴザイマシタ、左様ナ次第デゴザイマスカラ、且ツ政府委員モ出席デゴザイマシテ、修正案ニ附イテハ全然賛成デアルト云フ同意ノ意ヲ發表サレマシタ、九名ノ委員中島田委員長一人ハ御缺席デゴザイマシタカラ、賛否何レアゴザイマスルカ分リマセヌデゴザイマシタガ、他ノ委員ハ悉ク八名ノ委員ハ一致賛成デゴザイマシタ、左様ナ次第デゴザイマスカラ、何卒本會ニ於キマシテモ、満場一致ヲ以テ、御賛成アランコトヲ希望致シマス。

○望月長夫君(十九番) 此委員會デ修正サレタ規則ニ依リマスルト、唯一箇條ダケ「醫師會ハ其會則ヲ定メ」ト云フコトダケガ書イテアル切リデ、併シ本士ノ風紀ヲ保持スル規定、謝金及手數料ニ關スル規定ナント云フヤウナコトヲ定メヨト云フコトヲ命ジタ法文ハアリマスガ、此醫師會法案ニハ斯様な法文ハ書イテナイ、此法案ノ中ニ風紀ニ關スル規定ヲ定ムベシト云フコトヲ規定シテ置ガズシテ、若シ各府縣ノ醫師會ニ於テ、本案提出者及之ニ同意スル所ノ政府ノ望ムが如キ規定ヲ悉ク無用ナリトシテ、唯會員ノ築リ方、會ヲ開ク方法ダケ位ヲ規定致シマシテ、全ク無効ノ會則ヲ定メテ居リマスル場合ニ、政府ハ斯クノ規定、即チ法律ニ命ジテナイ規定ヲ政府ハ望ムケレドモ、法律ニ規定シテナイ規定ヲ設ケテ居ラヌカラ、此規定ハ認可セズト云フコトヲ言ヘルデアルカ、トウカ、法律ガ命ジテ居ラヌコトヲ其會ニ於テ規定セズシテ、全然此規則ヲ無効ニ致シタ場合ニ、政府ハ斯クノコトヲ極メテ來ナケレバ、イケナイト言ツテ、認可シナイト云フコトガ出來ルカドウカ、例ヘバ傳染病ヲ隠匿シテモ除名シナイト云フコトヲ極メタナラバ、是ハ公益ヲ害スルト云フコトデ、認可セザルコトヲ得マセウガ、傳染病ヲ蔽ウテモ除名スルト云フコトヲ極メナカッタ場合ニハ、政府ハ斯クノ規定ヲ缺クカライケナイト云フコトハ、法律ニ命ジテナイ以上ハ、斷ジテ出來ヌト思フ、併シ政府ハ此案デ、政府ガ望マレルガ如キ目的ヲ達スルコトガ出來ルト、御認ニナックタノハ、果シテ此案デ左様ナ規定ヲ命ズルコトガ出來ルノデアルカドウカ、此點ニ附イテ政府委員ノ説明ヲ聽キタイ

(政府委員内務省衛生局長長谷川泰君演壇ニ登ル)

○政府委員(長谷川泰君) 唯今ノ御尋ニ對シテ、御答ヲ申上ゲマス、此法案ニ風紀云々ノ法文ニ明文ガナイガ、若シ風紀ニ關係スルコトニアツタナラバ、ドウスルカト云フ御尋ノ御趣意ト伺ヒマスガ、果シテ唯今申上ゲマシタヤウナ、御質問ノ御趣意ニアリマスナラバ、此法案デ差支ナカラウカト信ジマスルノデアリマス、其理由ハ斯ウ云フコトニナラウト考ヘマス、此法案ガ發布ニナルモノト致シマシテ、而カ致シマスルト、總テ斯ウ云フ法案ニハ、勅令

デ施行細則ガ發布ニナルノガ普通デゴザイマス、唯今言レルヤウナ點ハ、施行細則ヲ勅令デ設ケマスカラ、少シモ差支ナイカト信ジマス、此段ヲ御答致シマス。

○望月長夫君(十九番) 細則ヲ出スト云フコトハ、無論デゴザイマセウガ、本則デ大體極メテ居ナイコトヲ細則デ此會ハ斯クノコトヲセヨト云フコトヲ、命ズルコトガ出來マスカ

○政府委員(長谷川泰君) 御答申上ゲマス、ワレハ勅令デ施行細則ヲ極メマスカラ、差支ナイト信ジマス

○鮫島相政君(一百一十九番) 委員長ニ質問ヲ致シマスルガ、此修正ノ條項ノ中ニ就イテアリマス、第九條ノ第二項ニ「内務大臣ハ何時タリトモ前項ノ處分ヲ解クコトヲ得」ト云フ修正ヲ原案ニナカッタノニ之ヲ加ヘテゴザイマスル、然ルニ此前項ノ處分ト申シマスレバ、第十條ノ「懲戒處分ハ左ノ一種トス」トスウアツテ第一ガ謹責、第二ガ除名、斯ウ云フ二種シカ懲戒ノ種目ハナイ謹責ニ附イテハ一時ニ處分ヲシテシマフモノデアリマスルカラ、此謹責ノ處分ニ對シテ處分ヲ解クノ必要ガナイト云フコトニナラツテ來ル、唯除名ノ處分ニ對シテノミ内務大臣ハ何時タリトモ前項ノ處分ヲ解クコトガ出來ルトスウ云フコトニシカシテナイコトニナルノデアリマスガ、此第十條ノ第二ノ除名トアリマスルノモ、元ト原案ニハ除名トアツタノデ、但書ガナカッタノデアル、然ルニ修正案ニハ「但シ除名ハ一箇月以内トス」ト云フコトヲ挿入シテアル、此僅カ一箇月ノ除名處分ヲ爲シタ者ニ對シテ、内務大臣ガ其處分ヲ解クト云フコトデアリマスルガ、サウ云フ場合ハ、内務大臣ガ其一箇月以内ノ除名處分ヲ解クノデアリマスカ、其場合ヲ聽キタイノデアリマス、本員ノ考デハ、除名ト云フモノヲ一箇月以内トシテ置イテ、サウンテソレヲ又此處分ヲ解ク杯ト云フコトヲ、種々手數フナシマスル間ニハ、既ニ期限ガ經過シテシマフヤウナコトガアリハシナイカト思フノデアリマス、例ヘバ東京府下ノ醫師ニ對シマシテハ何時デモ、解除ガ出來マセウガ、鹿児島縣ノ如キ所ノ者ガ除名處分ヲサレテ、サウシテ内務大臣ニ處分ヲ解クノ手續ヲ求メマスル、色、スル中ニハ、モウ期限ヲ經過シテシマヒハシナイカ、遠方ノ土地ノ者ト東京ニ近イ所ノ者トニ對シテ、大變不公平ガ出ハシナイカト思フノデアリマス、此點ヲ一ツ聽キタイノデス、ソレカラモウ一ツハ、第十五條ノ「北海道沖繩及島地其他ニ對シテハ」斯ウナラツテ居リマス、其他ノ他ト云フノハ、何ヲ指シタノデアリマスカ、北海道沖繩縣其他ト云ヘバ、内地ノコトニナラツテ來ヤウト思フ「別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フ此「之」ト云フ字ハ、農會法案ヲ指シタノデアルカ、何ヲ指シタノアルカ、ソレガ分ラナイ(笑聲起ル)「之ヲ定ム」ト云フ「之」ト云フ字ノ意味ト、ソレカラ「島地其他」ト云フ「其他」ハ何デアルカト云フコトダケヲ問ウテ置キタイ、大體ハ本員ハ賛成デアリマス

○鈴木萬次郎君(百六十七番) 此内務大臣ハ何時タリトモ前項ノ處分ヲ取消スコトヲ得ルト云フ、斯ウ云フコトガ、東京府下ノ如ク直チニ實行出來ル處ト、或ハ是ガ上申或ハ取消ノ手續ニ附イテ、遠隔ノ地ハ日數ヲ經ルカラ、其

○議長(片岡健吉君) 鈴木萬次郎君

モノデアルカト云フ、斯ウ云フ御尋ニ過ギヌヤウデアリマス、或ハ左様ナコトモゴザイマシヤウ、三日カ四日デアリマシタナラバ、鹿兒島ヘ郵便ガ達シマスルノヲ——郵便デモ致シマシタナラバ、或ハ三日位ノ除名ハ經過シテシマフト云フヤウナコトガアラウト思ヒマスケレドモ、殊ニ内務大臣ガ取消ヲスル、前項ノ懲戒處分ヲ取消スト云フガ如キ場合ハ、思フニ二週間以上重キニ從ツタコトデ、問題モ隨分ヤカマシイ事柄ノ場合ニ始テ起ルコトデアラウト存ジマスカラ、或ハ當局者ハ斯様ナ場合ニハ、其取消ヲ電報ヲ以テ發セラレルトカ、何トカ云フコトノ運ビニナルコト、思ヒマスカラ、多少ハ東京府下ト遠隔ノ地トカ云フモノニ附キマシテハ、多少ノ不公平ト云フヤウナコトモ出來ルカモ知レマセヌケレドモ、併ナガラ其大體ニ於キマシテハ、マルデ此條項ガ——取消ト云フ條項ガ無效ニナルト云フヤウナコトハナイデアラウト存ジマス、是ハ實ハ委員會ニ於キマシテハ、斯様ナコトニ附イテハ深ク研究ガゴザイマセシデンタカラ、委員長ト致シマシテハ、サウ細カニ御答スルノ限デハナカラウト思ヒマス、折角ノ御尋デゴザイマスカラ、念ノタメニ御答致シマス、ソレカラ此其他ト云フコトニ附イテ御尋デゴザイマスルガ、臺灣ト云フモノモ矢張其他ノ中ニ含蓄シテアルモノト、委員會ニ於テハ解釋ムルト云フコトデゴザイマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

〔贊否ノ討論ニ掛ランコトヲ希望スト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) モウ討論ニ移ラウト思ヒマスガ……

○丸山嵯峨一郎君(二百一十一番) チヨット委員長ニ質問致シマス、此法案ハマダ甚ダ不完全デアリマシテ、贊成ヲ致シタクテモ贊成ガ出來ナイノデアリマスガ、尙ホ念ノタメニ質問ヲ致シテ置キマスル、此法案ノ各條ヲ見マシテモ、其目的ト相伴フベキ條文ト云フモノハ、見出スコトが出來ナイカラ、尙ホ明ニ委員長ヨリ此法案ノ目的トスル所ヲ明白ニ述べ貰ヒタク、ソレカラモウーツハ、最モ此幼稚ナル醫師會ト云フモノニ向シテハ、恐ルベキ所ノ事柄ガアル、現ニ委員長ノ報告中ニモ、外人ノコトニ關シテハ規約ヲ以テ之ヲ定ムルト云フヤウナ危険ナル報告ガアリマシタ、各人ノコトニ關シテハ、此法律ニ依シテ定ムベキモノデアル、然ルニ規約ヲ以テ外國人ニ關スル所ノ權利義務ノコトマデモ、規定スルト云フヤウナ考デ居ラル、ナラバ、若シ誤ッテ内國人ニ對シテ、斯様ナ規約ヲ以テ權利義務ノコトニマデモ、關係ヲ及スコトヲ規定スルカモ知レマセヌ、實ニ幼稚ナル此醫師會ト云フモノニ向シテハ、非常ニ危険ナコトデアリマスカラ、斯様ナ考ヲ以テ此法律ヲ發案ヲスルト云フコトニ至シテハ、甚ダ面白クナシ、此邊ノ御考ハドウ云フ御考デアリマスカラ、大體此醫師法ト云フモノガアグテ、サウシテ醫師會則ト云フヤウナモノヲ、先づ醫師法ニ於テ條項ヲ定メテ其條項ノ範圍内ニ於テ規約ヲ定ムルト云フコトナラバ、格別デアリマスケレドモ、醫師法ト云フモノモナク、醫師會法ト云フモノヲ先づ斯様ナ形ニ於テ提出フシテ、サウシテ其内容ヲ見マスルト、少シモ醫師會ト云フモノヲ創立スルダケノ目的ト云フモノガ、條項ノ上ニ現レテ居ラヌ、其邊ノコトニ附イテハ、ドウ云フ御考デアリマスカラト云フコトヲ質問ヲ致シタ

○鈴木萬次郎君(百六十七番) 委員長ト致シマシテハ、唯今ノ二百二十一番

ニ對シテ、再び御答辯ハ致シマセヌ、報告ヲ致シマシタダケガ委員長ノ義務デゴザイマス、ソレダケノコトハ御報告致シマシタ、其他ハアト御議論ニ涉ルヤウデゴザイマスカラ、答辯ヲ致シマセヌ

○議長(片岡健吉君) モウ討論ニ移ラウト思ヒマス——持田直君
〔持田直君演壇ニ登ル〕

○持田直君(二十四番) 私ハ此法案ニ反対ヲ致シマス(「ヤカマシイ問題ダカラ、簡短トハ申シマセヌ」ト呼フ者アリ又「簡短」ト呼フ者アリ)簡短ニヤル積デアリマスケレドモ事ニ依ルト長クナルカモ知レマセヌ、私ハ此法案ト云フモノハ、絕對的ニ必要ナモノデ、無イ方ガ宜イト云フ考ヲ持ツテ居ル、是ガアルタメニ却ツテ害ガアツテ、チツトモ益ガナイ、斯ウ云フ考ヲ漸ク浮ビ出シタンダ、漫リニ斯様ナルモノハ、議決スベキモノデナイト思フ、何故カト云フノニ、是ハドウモ其大變ナンデス、一方ニ於テハ醫者其者ノ權利ト云フモノヲ剝奪シテシマフ、則チ醫業ヲ爲スト云フ權利ヲ剝奪シテシマフ、又一方ニ於テハ人民ガ委託シヤウト思フ——アノ醫者ニ賴モウ、是非アノ醫者ニ掛レバ死ンデモ宜イト斷念シタ者ガアツテモ、其醫者ニ掛ルコトが出來ナイト云フ法案ナシデス、滅法界モナイコトダ(「大間違」ト呼フ者アリ)一向違ハナイ、之ヲ今委員長ノ説明ニ依ツテ見ルト(「簡短」ト呼フ者アリ)醫師會ト云フモノニ這入シテ居リサヘスレバ、東京ニ居ル者ガ長崎ニ往ツテ診察ヲシテモ宜シイ、成程サウダラウ、醫師會ヘ這入レバ、サウニ相違ナイガ、這入ラナ人ハ如何ニスルカ、今日或ハ大學ノ教授ヲシテ居ルトカ、或ハ陸海軍ノ醫者ト云フモノデアツテ、ソレハ成ル程素人デナイ、月給ヲ取ツテ居ルヤツガ手間率ザ知ラズ、何時ノ世カラ言ヒ來シタカハ知リマセヌガ、醫ハ仁術デアルト云フ、此仁術デアルモノヲ殊更ニ物ノ賣買ヲスルヤウニ、斯ウ云フ仲間ニ這入ッテ、吾ミノ仲間ニ這入ラナケレバ、醫者ノ業ヲ爲スコトガ出來ナイト云ヘバ、所謂桃李云ハザレドモ自ラ蹊ヲ成ス、出張モシナイ、廣告モシナイ、強チ醫者取ヲ外ニスルカラ、宜クナイト云フ議論ガアルガ、決シテサウデナイ、外國人ハ如何ニスルカ、今日或ハ大學ノ教授ヲシテ居ルトカ、或ハ陸海軍ノ醫者ト云フコトヲ本業トハシナイケレドモ、若モ世ノ中ニ人命ヲ救フコトガ出來ルナラバ、救ツテヤラウト云フ實ニ仁者ガアルト御覽ナサイマシ、此人ニ賴ンデ直シテ貰ヒタイト思フケレドモ、一方モ或ハ直シテヤリタイト思ツテモ、醫術ハ知ツテ居ルガ、醫師免許規則ト云フモノガアツテ、其法律ニ依ツテ十分ニ人ヲ治療スルダケノ技能ハ持ツテ居ルケレドモ、此人ニ對シテ賴ムコトが出來ナイ、又賴マレルコトが出來ナイ、斯ウ云フヤウナ窮屈ノ法ハ、殊更ニ此或ハ辯護士デアルトカ何トカ云フモノデアルナラバ、成ル程法律ヅクメダ、道德上、德義上ニ於テハ此人ノ業ハ誠ニ結構ダケレドモ、併ナガラ法律上仕方ガナニト云フヤウニ、即チ此法律家ト云フヤツハ法律デ縛ルノダケレドモ、醫者ト云フモノハサウヂヤアナイ、誠ニ仁ノ所謂仁術ヲ施ス地位ニ在ル者ハ、何デモ彼デモ醫師免許規則、或ハ傳染病豫防法、或ハ其他般ノ刑法ナリ總テ法律デ縛ツテ置キナガラ、其上ニ又一ツ斯ウ云フ規則ヲ拘ヘテ縛ラナケレバナラヌ必要ガアリマセウカ、然ラバ醫師免許規則何ニモナラヌ、一方ニ於テハ醫者タルコトヲ許シ、療治ヲスルコトヲ得ル權利ガアリト定メナガラ、一方ニハコンナ會ヲ設ケテ、コソナ會ニ這入ラナケレバ、療治ヲスルコトガ出來ヌト、斯クスルコトハ畜ニ醫者ヲ苦メルノミデアルナラ宜シイガ、ソレガタメニ社會ノ良民ガ是非此人ニ依頼シナケレバナラスト言ツテモ、掛ルコトガ出來ナイト

云フヤウナ、斯ノ如キ窮屈ナ法律ヲ定メルコトハ、實ニ不都合デアラウト思フ
ソレカラ望月君カ誰カ先刻質問シタヤウダケレドモ、此會ガオカシイ、唯醫
師會ヲ設クベシ、何デモ集マリサヘスレバ宜イ、頭數ガ揃ツテ統計上デ幾人醫
者ガアルト云フコトガ分レバ、ソレデ宜シイト云フ法律規則ダ、何ヲスルン
ダ、チットモ分ラヌ、寄ッテ集ツテ何ヲスルンダカ、少シモ分ラヌ、唯會ヲ設ケテ
マルト云フニ過ギナインハ、チットモ目的ガナイ、ソレ故ニ先刻ドナタカ委員
長集ニ目的ヲ質問シタ、土臺目的ガナインダ、委員長ガ縱令今日何程ノ目的ガ
アルト云フコトヲ説明シタ所ガ、此法律ニ何モ書イテナインガ、何ノ役ニ立チ
マセウ、委員長ニ質問スルダケコケダ、シタツテ役ニ立タヌ、委員長ガドンナ
ニ結構ナ説明ラシタ所ガ、何モ書イテナイモノガ、何ニナリマセウ、目的ガ土
臺ナインダ、唯目的ト云フモノハ、多數ヲ縛ルト云フニ過ギナイン法デアラウト
思フ、ソレカラ又ドナタカノ質問ニモゴザイマシタガ、折角此除名スルト云フ
コトヲ極メタ、極メタケレドモ内務大臣ハ何時デモ之ヲ解クコトガ出來ル、
實ニ馬鹿氣タコトデヤゴザイマセヌカ、内務大臣ガ御神デヤアゴザイマスマ
イン、殊ニ今日政黨内閣ガ行レルト云フトキニ、ドンナ私デモ出來ル、ドン
ナ人ヲ内務大臣ニスルカ知レナイ、所ガ内務大臣ハ何時デモ自分ノ考ニ依ッテ
ハ、許スコトガ出來ル、コンナモノハ最モ土臺ガ不都合デアル、其外缺點ヲ舉
ゲマスルト、際限モナクゴザイマスケレドモ、缺點ヲ舉ケル必要ガナイ、何故
ナレバ固ヨリ此案ト云フモノガ、不都合ナノデゴザイマスカラシテ、如何ニ
之ヲ訂正シテモ修正シテモ同ジコトダ、矢張不完全ノモノ本カ出來ナイ、私
ハソレ故ニ絶對的ニ不需要ナモノデアルト云フ考ヲ以テ反對ヲ致シマス

○鈴木萬次郎君(六十七番) 諸君、唯今持田君カラ反對ノ御演説ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテハ徒ニ辯駁ヲスルト云フコトハ致シマセヌ、大概滿場諸君ガ御諒察デアラウト思ヒマス、ソレデ先刻二百二十二番カラ御尋ガゴザイマシタ際ニ御答辯ヲ致シマセヌデゴザイマシタガ、唯此醫師法案ノ目的云云ト云フコトニ附イテ御尋ネデゴザイマシタガ、提出者ノ一人ト致シマシテ、同君ニ向ツテ御答辯ガテラ述ベヤウト思ヒマス、此醫師會法案ノ目的ハ、大別致シマスレバ三四箇ニ別チマス、第一ハ醫者ノ統一ヲ圖リマシテ、醫者ノ風紀ヲ保持スル、又第二ニハ進ンデ醫師ガ公共ニ對スル職責ヲ全ウスル、即チ傳染病流行時ニ當ツテ惰慢不注意等ノナイヤウニ致シテ、サウンシテ傳染病ノ蔓延致スト云フコトノナイヤウニ務メルト云フコトガ一ツデゴザイマス、第三ニハ醫師ノ戸籍ヲ明確ニ致スト云フ事柄デゴザイマス、本案ヲ提出致シマシタ砌申述ベマシテゴザイマスガ、近ク統計表ニ依ツテ此東京府下ノ醫師ノ籍ヲ是非之ヲ統一一致シ組合ヲ立ツルノ必要ガアルト云フコトカラ、明治八年デゴザイマシタガ、補本正隆君ガ府知事デアルトキニ東京ノ大小區ヲ分チマシテ、其後明治十三年ニ矢張府知事ノ勧ムル所ト爲リマシタ結果、醫師組合ヲ起スコトニナリマシタガ、遂ニ遷延致シマシテ、漸ク明治十九年ニ至ラ、東京ノ如キハ醫師組合ト云フヤウナモノガ出來マシタ、此時代ハ餘程統一ガ出來テ居リマシテ、醫師

ノ先輩トシテ仰グ所ノ松本順君、續イテ佐々木東洋君杯ガ、殊ニ心配ヲセラ
レ、統一ヲ圖ラレマシタ、稍、紀律正シキ見ルベキ會合ガ出來マシタノデゴザ
イマシテ、其當時ハ會ヲ開キ、集會ヲ致シマシテモ、申合ヲ致シマシテ餘程秩
序立ツタ有様デゴザイマシタガ、星遷リ物變り、今日ニ至リマシテハ、殆ド集會
ガゴザイマシテモ、出席者ハ甚ダ少イ、規約ヲ作りマシテモ、守リ手ガ甚ダ少
イト云フヤウナ現在ノ有様ニナッテ居リマス、是ハ東京府下バカリデハゴザ
イマセヌ、各地方共ニ縣知事ノ諭達縣達等ニ依リマシテ、醫師ノ組合ノ如キモ
ノハ、即チ此法案ニゴザイマス如キモノハ、出來テ居リマス、出來テハ居リマ
スルケレドモ、其最列ハ地方デモ東京デモ稍々見ルベキモノハゴザイマシタ
ガ、今日ノ有様デハ入會シナクトモ宜イ、會費ヲ出サナクトモ宜イ、出席ヲ致
サナクトモ宜、イト云フヤウナ有様ニナッテ居リマスカラ、平素ハ兔モ角、此傳
染病流行等ノゴザイマシタ場合ニハ、之ガタメニ當局者及一般ノ公衆ハ、迷惑ヲ
スルコト歎カラヌノデゴザイマス、其結果ハ年々歲々惡疫流行ト云フ上ニ於
テハ、醫師ガ統一ヲ缺クト云フコトノタメニ、此傳染病ノ猖獗ニ向ッテ、之ヲ
ト云フモノニ向ッテハ、斥候隊ノ如ク、或ハ戰鬪隊ノ如キモノデアルト云フコ
トハ、御承知デアラウト思フ、其醫師ガ武歩ニシテ整々致シマセヌケレバ、
此恐ルベキ病魔ノ盛ナラザルニ至ッテ、撲滅ヲスルト云フコトハ、私喋々申
申シマセヌ、サリナガラ申上ゲルマデモナイガ、醫師ハ御承知ノ通傳染病惡疫
防止スルト云フ上ニ缺損ラ生ズル場合ガ少ナカラヌコト、思ヒ
醫師會ガ成立シテ、醫師ガ統一ヲ計ラレタカラ、日本ニ傳染病ガナクナルトハ
サイデモ諸君ノ御諒知ニナルコトデアラウト思ヒマス（「醫師ノ任最モ重シ」）
ト呼フ者アリ然ルニ此我國ノ傳染病ノ有様ヲ調べテ見マスルト、實ニ寒心ニ
堪ヘザルモノガゴザイマス（「簡單」ト呼フ者アリ）十年以前カラ此五年年前ノ
傳染病ノ概略ヲ申シマスルト、明治二十一年カラ三十年マデノ六種ノ傳染病
ノ數ト云フモノハ、百四十三万一千七百八十七人、隨分餘計デゴザイマス（「簡
單」ト呼フ者アリ）ソレカラ中死亡モ從フテ澤山ナモノデゴザイマスル、世ノ中
ガ進ミ豫防消毒ト云フ學理ガ進ムニ引換ヘテ、我國ノ傳染病ハ年々歲々殖エ
テ居リマス、毎年殆ド十五万ノ間ヲ昇降シテ居リマス、又之ガタメニ死スル者
モ四五万ノ間ヲ昇降シテ居リマスカラ、醫師ノ統一ヲ計シテ此上ニ向ッテ其
義務ヲ盡サセルト云フコトヲ致シマスルコトハ、必要デアラウト思ヒマス、其
他又醫師各家ニ於キマシテモ御覽ニナリマスル如ク、隨分醫師ノ品位ト云フ
モノモ、當時下落シテ居リマス（「天下落」ト呼フ者アリ）風紀モ紊レテ居リマ
ス、或ハ新聞ニ讀ムニ堪ヘナイヤウナコトモ廣告シテ居リマス、又或ハ受負療
治ト云フコトモヤッテ居リマス、醫師社會ノ有様ヲ見マスルト、實ニ不統一ノ
有様ヲナシテ居リマスカラ、此不統一ヲ矯メテ、進ンデハ醫師ノ本分ヲ全ウス
ルガタメニ、又退イテハ醫師ノ風紀ヲ維持シテ醫師ノ品位ヲ維持スルト云フ
上ニ附イテハ、斯ノ如キ法律ヲ以テ醫師組合ト云フモノヲ摺ヘ、尙ホ且ツ是ニ
醫師會ノ規約ト云フモノヲ作りマシテ、互ニ此規約ニ背カヌヤウニ、即チ法律
ニゴザイマスル如ク、其會へ這入シテ其規約ヲ遵奉セイト云フコトガ書イテゴ
ルガタメニ、又退イテハ醫師ノ風紀ヲ維持シテ醫師ノ品位ヲ維持スルト云フ
デ、サウシテ規約ヲ遵奉スルト云フ約束ノ下ニ這入ルノデゴザイマスカラ、

ロチヤールドノヤウナ者ガ來テ、新富座^デ以テ好イ加減ナ演説ヲシテ、金ヲ先取シテ療治ヲスルト云フコトハ、十分防クニ足ルコトデアラウト思ヒマス、又唯手數料ヲ直グ出シテ、今日カラ開業醫者デゴザルト云フヤウナコトハ、決シテ許シマセヌノデゴザイマスカラ、ソレハ施行細則若クハ醫師會ノ規則トカニ於テ、綿密ニ是等ノコトヲ記載スルコトデゴザイマスカラ、マルデ役ニ立タヌモノデアルト云フ御説ハ、ドウモ提出者ニ於キマシシテハ、了解致シ兼ネマスルノデゴザイマス、尙ホ申上グルコトモゴザイマスケレドモ、却ツ

○中村彌六君(百四十番) 質問ガゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 島田三郎君ニ登言ヲ許シマシタ

○議長(片岡健吉君) 質問ナラ……

○中村彌六君(百四十番) ソレテハ鉢才萬次郎君ハ御遺
ノ質問ヲ致シタイト思フノハ、大分専染病ノ豫防總テノ

ノ質問ヲ致シタイト思フノハ、大分傳染病ノ豫防總テノ醫師ノコトニ附イテ
統一ヲシタナラバ、始テ此目的ガ達シラレルト云フ御話デゴザイマスルガ、事
實ノ上ニ於テ醫師ノ統一ヲシタナラバ、拉ニ傳染病ノ流行ガ敷シクナルダラ

ウト云フコトヲ私ハ事實ニ附イテ御尋フシヤウト思フ、何ゼト云ヘバ三十年ノ歳デゴザイマスレ、我國ニ天然痘ガ這ヘリマレテ、東京ハ十分ノ流行地ト

ナツタトキデゴザイマス、其トキニ法律デハゴザイマセヌケレドモガ、東京醫
會、云々ノモア成ルツニヨウニ、ノゾムリ丁度、此義ナシニシニ、全然

ハ東京府デ種痘ヲサセルニ附イテ、一回ト云フモノハ五錢ヨリ乃至十錢デアツ

テヤラヌト云フコトヲ決議シタ、ソレカラ區役所デ從來左様ナ場合ニ醫者ヲ

會が決議ヲシテ、一日ニ五圓出サナケレバ、種痘ヲシナイト云フコトヲ決議シ

其上カラス若モ斯機ナニトニ應ズルナラバ
一應醫會ノ承諾を得ナケレバ
ナラヌト云フコトニ相成ツテ居リマシタ、群ナガラ世ノ中ニハ大變慈善ナ醫

者かアリマシテ、ソレヨリシテ大變ニ此慈善的ニ種痘ヲ致サレマシタが故ニ、東京醫會ハ大イニ張頭シテ、ツレ等ノ人ト交渉シテ五圓ノ由當ヲ二圓五十一錢

マデ下グテヤシタノガアル、サウシテ又淺草區アタリハ現ニ他カラシテモウ醫會ノ決議ニ依ツテ、淺草區アハ其區ノ醫者ヲ使フ「トが出來ズシテ、地力

ラ漸ク備ウテ來タ有様デ、斯ハ如ク醫者が聯合シテ、人ノ不幸ニ乘ジテ一人二十錢吳レヌケレバナラヌト云々テ、慾ヲ乾イテ

居ル中ニ三十年ノ此傳染病ト云フモノハ、府下ニ蔓延シタノデアリマス、幸セ此トガ齋院姑アダルノ深イ董ナ殿醫師デゴザイマシクガ故ニ、此外ノ人ガ

慈善的ノ行ヲシタカラシテ、此傳染病ガ斯クマテ蔓延シタ、若モ此鈴木君ノ言レル如ク醫師ガ統一シタナラバモット――統一シテ斯ノ如キ議決ヲ致シタナ

ラバ、最早東京ノ前途ト云フモノハ、傳染病ノ大流行地ニナツクラウト考ヘ
レ、其上ニ新業ナ陽合ダヤレノゾドコレ、事實ニ附シテ吉ミ流一ヲソメトラ

バ、鈴木君が自ラ言ハレル如ク、醫師ノ品格ハ大下落シテ居リマス……

衆議院議事速記録第十九號

明治三十二年一月二十一日

醫師會法案

第一讀會ノ續

○議長(片岡健吉君) 質問ノ要領ヲ御述ナサイ
○中村彌六君(百四十番) ソレデ斯ノ如ク下落シタル醫者ガ、斯ノ如キ場合
ニ於テ統一ヲシタナラバ、鈴木君ノ憂ヘテ居ルヤウナ鹽梅ニ、尙ホ流行ガ激シ
クナリハシナイカ、斯ウ云フノデアル、ソコデモウーッハ、チヨット此トキニ申
シテ置カソナラヌノハ、醫師ハ一方ニ對シテハ、内務大臣ニ――東京醫會會長
ハ内務大臣ニ豫防ノ必要ヲドンヽ^ク請求シナガラ、一方ニ對シテハ今ノ診察
料ノ直上ヲシテ居ル、確カ其時ノ醫會會長ハ今ノ政府委員ノ長谷川泰君ト思
ヒマス、御名前ヲ忘レマシタカラ、長谷川泰君カドウカ、ソレヲ承^トテ置キタイ
○鈴木萬次郎君(百六十七番) 唯今百四十番ノ御質問デゴザイマスカラ、御
答ヲ致シマス、本員モ記憶シテ居リマスガ、アノ場合ニ天然痘ガ大流行ヲ致
シマス徵ガゴザイマシタカラ、唯今ノ政府委員長谷川泰君ト共ニ、時ノ内務
大臣樺山君ヲ訪ヒマシテ、大イニ是ハ豫防ニ御盡力下サラナケレバナラヌ、
御心配下サラナケレバナラヌト云フコトヲ御相談ヲ致シマシタノデゴザイマ
ス、左様ナコトデ、唯今中村君ノ御心配ニナルヤウナ場合ガゴザイマシタリ、
決議シタト云フヤウナ場合ニハ、此法律ヲ御覽ニナリマスルト「第十二條地
方長官ハ醫師會又ハ其支會ノ決議ニシテ法律命令及醫師會會則ニ違背シ又ハ
公益ヲ害スルモノト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ其議決ヲ取消シ又ハ
其議事ヲ停止スルコトヲ得」トシテゴザイマス、サウ云フ場合ニ此法律ヲ以
テ止メナクテハナリマセヌカラ、之ヲ統一シテ往クノハ、却テ宜イコトデアラ
ウト思ヒマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス
○島田三郎君(二百五十番) 諸君、本員ハ此案ニ就イテ誠ニ身ニ餘ル責任ヲ
自白致サナケレバナラヌト思^シテ居リマスガ、醫學ノ智識ニ附イテハ全ク缺
乏シテ居リマスル本員ガ、料ラズモ此委員ニ選バレマシテ、遂ニ委員長ニ選
バレタ譯デゴザイマスガ、其トキニ當リマシテ、斯クマデ世上ノ大問題ト爲ル
ベキ議案ト私ハ思^フテ居リマセヌノデ、幸ニ醫學ニ附イテ關係アル原案者御三
名トモ委員ノ中ニゴザイマスカラ、此御方ニ十分事實ヲ伺^フテ、公平無私ニ公
益ニ合スルダケノ決議ヲシタイト、斯ウ思^シテ居リマシタ、ソレ故委員會ノ中
トニ就イテ簡短ニ即決スルヤウナ意思ガ、議會ノ中ニ成立^シテ居リマスカラ、
本員ガ重大ナル責任ガ、此案ニ對シテ議會ニ存スルト思ヒマスカラ、詳細ニ是
マデノ經過ヲ御話致シタイト思ヒマス、是マデ本員ガ色ニノ委員ニナリマシ
タケレドモ、此議案程全國カラ煩雜ナル報告ヲ受ケタモノハゴザイマセヌ、殆
ド地租問題ヲ除キマシタナラバ、此會期ノ中デ、此世間ヲ動カスベキ議案ハ、
是デアラウト思^フテ居リマスカラ……(簡短々々ト呼フ者アリ) 簡短ニハ何
分出來マセヌ、事實ヲ明瞭ニシテ、日本四千万人ノ衛生ニ關係スルコト、全國
ノ醫師ノ職業ニ關係スル者ニ對シテ、議會ガ輕卒ニ議^スルト云フコトハ、甚ダ
(恆松隆慶君「贊成ノモアリマセウ」ト呼フ) 贊成ガ丁度唯今持^テ居リマスモ
ノガ、茲ニ七通ゴザイマシテ、其七通ノ外唯今此議會ガ開ケテカラ、群馬縣カ

ラ一通參リマシタカラ、八通ゴザイマス、ソレカラ反對ガ三十七通ゴザイマス併ナガラ此コトニ附イテ暫ク御聞ヲ願ヒマスガ、本員ハ此反對ガ多イカラ、贊成ガ多イカラト云ツテ之ヲ輕重スルニハ足ラヌト思ツテ居リマス、何故ナレバ大抵ノ電報ハ、電報ノ字句トシテ唯反對トカ贊成トカ云フダケデ、理由ハモ申シテ居リマセヌノデ、其中出版物ヲ文書トシテ參ッタモノト、或ハ手紙トシテ參ッタモノヲ寄セテ見マスルト、其出版物ハ贊成ヲスルモ反對ヲスルモノ、大抵同文言ニナッテ居リマスカラ、此コトハ大イニ注目スペキ點ニアラウト思ロマス、中央ニ於テ反對ト贊成トカ地方ニ響キマシテ、此コトハ大イニ醫者ノ職業ニ關係ガアルガタメニ、忽卒ノ間ニ反對贊成ト云フ決議が成立シタルモノニアラウト云フコトハ、此文書ガ重ニ理由ガ一々出テ居ルノデ、本員ハ斯ウ推測ヲ致シマス、兔ニ角斯ノ如キ形勢カラ推シマスレバ、此議案ハ大イニ考ヘテ議決スベキ值打ノアルト云フ上ニ、四万ノ醫師ノ職業ニ關係スルト云フコトハ、諸君ガ一考ヲ煩ハスベキ要點ニアラウト思ヒマス、ソレデ本員ノ考ヘマスルニ、此議案ハ危險ノ分子ヲ除ケバ無用ニナルト云フ恐モゴザイマス、ルデ、無用ナラシメナケレバ、殆ド危險ナリト云フコトヲ本員覺テ居リマス、即チ此議案ニ附キマシテ、要領ハ第三條ニ是ハ這入ラナケレバ醫業ヲナスコトガ出來ヌ、ソレト第十一條ノ處分ヲ爲スノニ、禁止ニ除名ト云フコトデゴザイマシテ、其除名ト云フコトハ、即チ名ヲ變ヘタル醫業ノ停止、若シ是ガ此期限デアレバ、醫業ヲ禁止スルト同ジコトデアル、何故ナレバ除名サレマスレバ、加入シテ居ラヌカラ、即チ其間醫業ヲ爲スコトガ出來ヌト云フ結果ニナル、是ガ此案ノ骨子デアル、又法律ノ力デ、統一シテ加盟セシメント云フコトモ、此案ノ骨子デゴザイマスカラ是ニ附イテ、本案ハ澤山ノ效能モ持ツテ居リセウケレドモ、寧口弊ノ方ガ多クシテ、利ノ方ガ少イヤウニ思ヒマス、此議案ノ成立ニ附イテ考ヘテ見ルト、稍々辯護士法ニ類似ノモノガ此間ニゴザイマシテ、皆組合ヲ立テ、互ニ風紀ヲ矯正スルト云フコトヲ、鈴木君ガ言レマシタガ、此辯護士ト醫師トガ身ヲ置クコトガ、大層異ツテ居リマスカラ、效力ガナイト云フコトヲ考ヘマス、其下ニ集ツテ——裁判所ノ下ニ極近イ所ニ集ツテ居リマスカラ、會ヲ開クト申シマシテモ、何レノ地テモ直チニ寄ルコトガ出来テ、多クノ人ノ説ヲ聞質スノ便利モゴザイマスガ、醫師ハ之ニ反シテ、全國ノ村落ニ至ルマデ、皆各地ニ分レテ居リマスルデ、一ツ所ニ集ツテ裁判所ヲ中心トスルニアラズシテ、全國ニ充チテ居ル國民ヲ對手ニスル所ノ醫師デアルカラ、各所ニ散布シテ居ルノデゴザイマス、此散布シテ居ル者ハ、例ヘバ長野縣デアルトカ、或ハ新潟縣デアルト云フヤウナ所ニ、醫會ヲ設ケテ一ツ所決議ト云フモノハ、所謂餘リ職業ニ忙ガシカラヌ醫者ノ手ニ落チルコトニナルノデアリマス、是ニ重大ナル自治權ヲ與ヘルト云フノハ、本員ハ不同意デアル、全體法律ノ力ト云フモノハ、社會ノ氣運ニ應ズルカラ、效力ガアルノデアル所ヘ集ツテ來ルコトハ出來ヌ不便ガアラウト思ヒマス、サウシマスルト此

合デアルト、本員ハ尊敬シテ居リマスルケレドモ、若シ提出者ノ鈴木君ノ言レルガ如キ、風紀日ニ亂レ日ニ下落スルト云フ譯デアリマスレバ、流行ルモノガ、惡クスルト流行ラヌ醫者ノ決議ノタメニ、非常ニ害ヲ受ケヤウト思ヒマス、即チ風紀ヲ高貴ナラシムルト云フノガ、何ゾ料ラン、此風紀ヲ自ラ維持スルコトガ出來ヌノデ、若シ總體ガ皆折合ヒマシテ、效用ノアル醫會ヲ作ツテ、是デ足ラザル所ニ補フクメニ、入レルト云フ工夫デアルナラバ、態ニ法律ヲ以テ、是非這入レト云フコトノ必要ハナインデアル、ソレガ出來ナイカラ、無理ニ斯ノヨリ尙ホ進ンデ申シマスルト、此議案ハ誠ニ危險ナル、議案デアル、勅令ヲ如キ紛亂ガアツテモ構ハズ、法律ノ力デヤルト云フナラバ、何ゾ料ラン、唯今申シマシタヤウニ、自治ヲ許スベカラザル人ヲ土臺トシテ、是ニ自治權ヲ與ヘルト云フコトハ、論理上誠ニ矛盾シタル法律案ニアラウト思ヒマス、ソレルデ、無用ナラシメナケレバ、殆ド危險ナリト云フコトヲ本員覺テ居リマス、即チ此議案ニ附キマシテ、要領ハ第三條ニ是ハ這入ラナケレバ醫業ヲナスコトガ出來ヌ、ソレト第十一條ノ處分ヲ爲スノニ、禁止ニ除名ト云フコトデゴザイマシテ、其除名ト云フコトハ、即チ名ヲ變ヘタル醫業ノ停止、若シ是ガ此期限デアレバ、醫業ヲ禁止スルト同ジコトデアル、何故ナレバ除名サレマスレバ、加入シテ居ラヌカラ、即チ其間醫業ヲ爲スコトガ出來ヌト云フ結果ニナル、是ガ此案ノ骨子デアル、又法律ノ力デ、統一シテ加盟セシメント云フコトモ、此案ノ骨子デゴザイマスカラ是ニ附イテ、本案ハ澤山ノ效能モ持ツテ居リセウケレドモ、寧口弊ノ方ガ多クシテ、利ノ方ガ少イヤウニ思ヒマス、此議案ノ成立ニ附イテ考ヘテ見ルト、稍々辯護士法ニ類似ノモノガ此間ニゴザイマシテ、皆組合ヲ立テ、互ニ風紀ヲ矯正スルト云フコトヲ、鈴木君ガ言レマシタガ、此辯護士ト醫師トガ身ヲ置クコトガ、大層異ツテ居リマスカラ、效力ガナイト云フコトヲ考ヘマス、其下ニ集ツテ——裁判所ノ下ニ極近イ所ニ集ツテ居リマスカラ、會ヲ開クト申シマシテモ、何レノ地テモ直チニ寄ルコトガ出来テ、多クノ人ノ説ヲ聞質スノ便利モゴザイマスガ、醫師ハ之ニ反シテ、全國ノ村落ニ至ルマデ、皆各地ニ分レテ居リマスルデ、一ツ所ニ集ツテ裁判所ヲ中心トスルニアラズシテ、全國ニ充チテ居ル國民ヲ對手ニスル所ノ醫師デアルカラ、各所ニ散布シテ居ルノデゴザイマス、此散布シテ居ル者ハ、例ヘバ長野縣デアルトカ、或ハ新潟縣デアルト云フヤウナ所ニ、醫會ヲ設ケテ一ツ所決議ト云フモノハ、所謂餘リ職業ニ忙ガシカラヌ醫者ノ手ニ落チルコトニナルノデアリマス、是ニ重大ナル自治權ヲ與ヘルト云フノハ、本員ハ不同意デアル、全體法律ノ力ト云フモノハ、社會ノ氣運ニ應ズルカラ、效力ガアルノデアル所ヘ集ツテ來ルコトハ出來ヌ不便ガアラウト思ヒマス、サウシマスルト此

規律ヲ緊縮シ、之ガ豫防ニ備ヘルト云フノガ、第一ノ效能デ、第二ハ自治的監督ノ效果ニ依リ醫師ノ風紀ヲ高尙ニシテ、其業務ヲ實正ナラシムルト云フコト、第三醫籍ヲ嚴明ニシテ、誠實ナル醫師ヲ保護シ、第四難居後内外醫士ヲ同一規定ノ下ニ置キ、公衆衛生及人權ノ全キヲ致ス、是ガ大日本醫會ノ名ニ集メテ、此議事ヲ開クト云フノハ、蓋シ極近イ所ニ住ム醫者ハ、勉強シテ出ルデアリマセウガ、熟練ナル得意ノ多イ醫者ハナカヽ^カ五十里七十里モアルノニ、社會ガソレニ力ガ及バナイ、法律デ不同理ヲ極メ、無理ニ束縛シテ統一スルト云フノガ、此案ノ精神デアルトシタナラバ、丁度反對ノ結果ヲ現スモノニアラウト思ヒマス、斯フ云フコトガアリハシナイカ、私ハ左様ニ思フノデ丁度醫者ト云フモノハ高等ノ教育ヲ受ケタ、所謂先生ト言レベキ人ノ寄

緊縮シト云フノハ、今述ベマシタ理由デ、半バ效力ヲ失テ居ルト思フ、第二風ヲ高尙ニスルト云フコトハ、法律ノ力ヨリハ寧ロ醫學社會ニ於テ勢力アル先輩ノ人ガ紀風ヲ矯正スルノガ、必要デアラウト思フ、恰モ是ハ書物ヲ以テ、紀法律ヲ以テ、道徳ヲ高メルト同ジヤウナ結果デアルカラ、其效力アルモノトハ認メルコトハ出來ナイ、第三醫籍ヲ嚴明ニシテ、誠實ナル醫師ヲ保護スルト云フコトハ、行政官ガ規則ヲ握ラテ、此醫籍ヲ作ラウト云フコトナレバ格別、若シ是ガ出來ヌト云フコトナレバ、行政官ノ怠慢デ、醫者ヲ取締ル法律ハ、皆捨テラレテ居ル、第四ノ難居後内外醫士ヲ同一規定ノ下ニ置クト云フコトハ、是ハ效能書ダケデアツテ、一向效力ガナイト思フ、例ヘバ外國カラ來ル醫者ガ醫業ヲ營ミタイト云ヘバ、如何ナル資格ノ者ハ許ス、如何ナル資格ノ者ハ許サムト云フコトハ、法律ノ規定ヲ日本政府ガ立テズニ置イテ、本人ガ私ハ醫者デゴザイ、仲間入ヲ願ヒマスト云ウテ、一圓ノ手數料ヲ拂ッテ籍ヲ入レバ、是ハ不取締ノ極ト云ハナケレバナラヌ、何故ニ一體内地難居後内外同ジ土臺ノ上ニ置クナラバ、ソレニ對スル法律ヲ外國人ニ向テ立テルト云フコトヲセズシテ、此日々下落スル組合ニ任カスルト云フコトハ、不都合デアルト思フ、是等ニ至シタナラバ、所謂行政官ノ探究ノ上ニ存シテ、醫學社會ノ人ガ斯ノ如キ法律ヲ以テ議會ヲ煩スニモ及バスト思フ、又善イ方カラ申シマスナラバ、外國カラ知名ノ醫者ガ來テ、チヨウト日本ニ一週間滯在シテ居ル間ニ、其人ニ日本ノ専門家ガ病氣ノ鑑定ヲシテ貴ヒタイト云フ、コチラノ醫者仲間ガ寄シテ、其人ニ來テ、見テ貰ヒタイト云フコトガアツテモ、一週間ノ滯在デ此仲間ニ這入シテ居ラヌカラ、脈ヲ取ラシテハイカヌ又(鈴木萬次郎君「營業デハナイ」ト呼フ)營業ノ部ニモ這入リマス、私自身ニ病ガアツテ丁度一週間滯在シテ居ル所ノ知名ノ人ニ頼マウト云フトキニ、日本國ノ此組合ニ這入シテ居ラヌカラ、診斷セシメヌト云フ恐モアリマスカラ、吳モ此精神ハ醫學ヲ重シ、醫師ノ品位ヲ高メヤウト云フコト、竝ニ取締ヲ嚴ニシヤウト云フ精神カラ成立ツテ居リマスルガ、文字ニ現レタ此跡トカラ論ジマスレバ、私ノ考デハ危険ガアツテ、ソレダケノ利益ガナカラウト思ヒマス、是ガ此案ニ對スル唯今マデハ本員ガ遲疑決セズシテ、贊成ヲ表スルコトノ出來ナイ理由デゴザイマス、内外ノ形勢デモウ一つ御話ヲ致シタイト思ヒマスル、丁度自分ニ關スル重大ノコトデアルカラ、十分ニ聽キタイト思ウテ、雙方ノ說ヲ私ハ常ニ聽クノニ注意ヲ致シタノデゴザイマスルガ、此終ノ決議ノトキニハ、本員ハ他ノ委員會ニ參シテ、此決議ニ加リマセヌ故ニ、成ルタケ公平ナル報告ヲナサンガタメニ、本員ガ不同意デアルガタメニ報告ノ力ヲ減シテ、議會ニ報告スルト云ヒニ、本員ガ不同意デアルガタメニ報告ノ力ヲ減シテ、議會ニ報告スルト云ヒコトハ、德義上許スベカラザルコト、思ヒマスルカラ、提出者トシテ豫テ委員タル所ノ鈴木君ニ依頼ラシテ、報道ヲシテ戴イタノガ、全クノ事實デゴザイマスル、斯ノ如キ事實デアリマシテ、全國ノ形勢ハ如何デアルカト云ヒスルト、斯様ナル文書ヲ本員ハ受ケテ居リマス、併ナガラ是ハ長ヨコトヲ恐レマスルシ、且ツ誠實ニスルガタメニ本文ヲ寫サズシテ、其儘議場ノ参考ニ供セシガタメニ卓子ノ上ニ置キマスガ、此中ニハ同ジ所ノ醫士ノ會カラ、贊成反対ト離タ電報モアル、已ハ醫會ノ仲間デアルガ、之ニ就イテハ反対デアル、少數デアルガ、多數ノ積デ、斯ウ云フ說が出来タト云フヤウナ文書モ此中ニ含マレテ居リマスカラ、此議會ニ於テハ醫者ノ御厄介ニナル吾々如キ人ハゴザイマスルガ、病人ヲ厄介ニスル所ノ醫學ニ關係スル御方ハ少數デアル

ガ故ニ、此議案ハ誠ニ冷淡ニ即決セラレル如キ形勢ガゴザイマスルガ、全國ノ醫者社會ニ於テハ一方ナラザル動搖ヲ起シテ居ルト云フコトハ、議員トシテドウシテモ省ミナケレバナラヌ、ソコデ是ハ兵庫縣カラ參リマシタ文書デゴザイマスガ、兵庫縣カラハ此中ニ通賛成シテ吳レト云フ電報ガ來テ居リマス、然ルニ又此外ニハ、全ク此法案ハ甚ダ不備デアル、不同意デアルカラ、否決シテ貰ヒタイト云フノデ、地方デモ十分ナル争ガ起り、激シイ戰ガ起ツテ居ルコトハ、此電報ヲ見レバ分ッテ居リマスルガ、兵庫縣カラ參クタ文書ノ中ニ、鈴木德男外醫學士ガ五名、開業醫ノ方ガ三名デ、七名ノ連名デ參ッテ居リマスルガ「吾兵庫縣醫士總數千三百人中大日本醫會員タル者ハ僅ニ八十餘人其會員中ニ在リテモ醫師會法案ニ贊成スル者ハ一小部分ニシテ現ニ其會員タル予等ノ如キモ亦反對ノ意見ヲ有ス即チ兵庫縣大多數ノ意思ハ醫師會法案ニ反對ナリ」斯様ナル文書ハ最モ注目すべき文書デゴザイマスルガ、此ノ中一部分ヲ見マスルト、大日本醫會ノ兵庫縣ノ支部ハ、贊成ダト、電報ガアルカト思ヘバ、其中ノ仲間デアルガ、吾々ハ斯ノ如キ事實ヲ以テ、之ニ反對デアル、其他各地カラ參リマシタモノニ、皆同ジヤウナ形勢ガゴザイマスルカラ、本員ノ望ム所ハ決シテ此目的ヲ否認スルニアラズシテ、議會ガ斯ノ如キ重大ナル責ヲ負ウテ(簡短ミト呼フ者アリ)其醫學社會ニ於テハ斯ノ如キ騒擾ガアル、世間モ亦之ヲ以テ輿論ト認メズ、本案ヲ見マスレバ斯ノ如キ不備缺點多ク、其中ニ危險ヲ含マシテ居ルカラ、原則ニ立戾シテ法律ハ利益ノ理由ガナケレバ立ヌ、斯ノ如キ明確ナラザルモノニ向シテ、自由ヲ束縛スルト云フ法律ハ、衆議院ガ甘ジテ立テル必要ハナイ、少クモ本員ハ斯ノ如キ責ヲ負ウテ起立スルダケノ自信ヲ持ツコトハ出來ナイト云フ理由カラ、此議會ニ於テハ是ハ議スベカラズ、即チ延期トシテ、再ビ大勢ノ定マルマデ吾々議員モ熟考ヲ加ヘ、又世間ニ世ノ中ニ斯ノ如ク配付シテ居ルニ拘ラズ、直接醫師ノ營業ニ關係シナシモノヲ強テ控ヘルト云フ決議ヲ此議會ノ議事錄ニ止メザランコトヲ望ムガタメニ、本員ハ延期ノ意味ヲ以テ、此案ノ否決サレシコトヲ望ミマス

○田中正造君(百十六番) 議長
○議長(片岡健吉君) 質問デスカ
○田中正造君(百十六番) 質問デヤアリマセヌ
○門馬尙經君(百六十九番) チヨウトドウカ、私ガ親戚ノ病氣ダカラ、早ク歸レト云フ電報ガ來マシタカラ、退席シテ宜シウゴザイマスカ

○田中正造君(百十六番) 百十六番——議長
(「異議ナシ」と呼フ者多シ)
○議長(片岡健吉君) 御歸リニナシテ宜シウゴザイマス
○田中正造君(百十六番) 質問デスカ
○利光鶴松君(百七十三番) 私ハ通告シテ居リマスガ、改テ討論終結ノ動議ヲ提出シマス
○田中正造君(百十六番) 議長
○議長(片岡健吉君) 百十六番ハ、何デスカ
○田中正造君(百十六番) 賛成ノ意味ヲ簡単ニ此處デ述ベマス
○議長(片岡健吉君) モウ演説ハ許シマセヌ、討論終結ノ動議ガ出マシタ、討論終結ニ同意ノ諸君ノ、起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 大多數デアリマスカラ、討論ハ終結シタモノト認メマス、本案ノ第一讀會ヲ開クヤ否ヤニ就イテ採決致シマスルガ、是ハ無名投票ヲ以テ採決致シマス——閉鎖——點呼ヲスル前ニ宣告ヲシテ置キマスルガ、本案ノ第二讀會ヲ開カウト云フニ同意ノ諸君ハ、白球ヲ入レマス、第二讀會ヲ開クベカラズト云フ諸君ハ、黒球ヲ入レルコトニ致シマス——是ヨリ點呼ヲ始メマス

ス
○議長(片岡健吉君) 投票洩ハアリマセヌカ——開鎮——是ヨリ開匝致シマ

（書記官投票及名刺ノ數ヲ計算ス）
○議長（片岡健吉君） 球數ト名刺ト數ガ合ヒマスカラ、投票ノ結果ヲ御報告致シマス

球數總計二百三十
白球一百六十九

黑球 六十一

○議長(片岡健吉君) 本案ニ二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ
○恆松隆慶君(九十七番) 此案ハ餘程議論モゴザイマシタニモ拘ラズ、大多
數ヲ以テ二讀會ヲ開クコトニナツタノデアリマスガ、併ナガラ此案ニヘ、委員
ノ修正モゴザイマシタガ、尙ホ多少又修正スルヤウナ意見ノナイト云フコト
モアリマセヌ、兎ニ角是ハ隨分慎重ニ議セナケレバナラヌ問題デアラウト思
ヒマスカラ、定規ノ日子ヲ經テ二讀會ヲ開クト云フノ動議デアリマス
〔賛成々々ト呼フ者アリ〕

第十四 民法中改正法律案(利光鶴松君外七名提出)
民法中改正法律案 第一讀會

明治二十九年法律第八十九號民法中左ノ通改正ス
第七百九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但失火ハ此限ニ在ラス

(利光鶴松君演壇ニ登ル)

○利光鶴松君(百七十二番) 諸君、諸君モ御承知ノ通ニ、民法施行法ノ第六十

一 條二 於キマシテ刑法附則ノ五十四條乃至六十條ヲ削除致シマシタ、其結果

トシテ過失ヲ以テ火事ヲ出シマスルト云フト、損害賠償ヲセナケレバナラナ

イト云フコトニナツタノデアリマス、ワレハ別ニ明文ハゴザイマセヌガ、民法

ハ七百九十九條ニ於テ損害賠償ノ原則が規定致シテアリマス、其原則ノ支配ヲ

受ケルト云フコトニナリマスカラ、火事ニ附イテ大イニ損害ヲ加ヘタトキ

之ヲ賠償シナケレバナラヌ特別ノ規定ハアリマセヌ、特別ノ規定ハ

アリマセヌガ、
詰リ民法ノ損害賠償ノ原則
ノ支配ヲ受ケルト云フコトニナ

リマスカラ、自然ノ結果トシテ火事ヲ出セバ、即チ損害賠償ノ責ニ任せナ

ケレバナラヌト云フコトニ相成リマス、是ニ特例ヲ設ケル、斯ウ云フコトガ
本案ノ趣意デアリマス、而シテ此特例ハ、決シテ新ニサウ云フコトニシヤウ

ト云ノノデハナインデアリマス、即チ是マデハ其特例ガ設ケラレテアツタノ
ガ、今回料ラズモサウ云フコトニナリマシタカラ、即チ從前ノ通ニ致シテ置
タイ、斯ウ云フコトニ過ギナインデアリマス、此民法ハ今回始テ實施ヲ致シ
マシテ、マダ一年モ經チマセヌノデ、而モ本員等ハ第十一議會ニ於キマシテ、
民法ノ特別委員トシテ、此民法ノ審查ヲ致シタ一人デアリマス、然ルニ自ラ
特別委員トシテ之ヲ審査シ、且ツ代議士トシテ諸君ト共ニ之ヲ協賛シテ置キ
ナガラ、マダ一年モ經タズシテ、此大法典ニ在ル不都合ガアルト云々テ、是ガ
修正案ヲ提出スルト云フコトハ、實ニ私共ハ天下ニ對シテ謝サナケレバナラ

限ハ目前ニ迫^{シテ}居リ、議會ハ極短期ノ議會デア^{レタ}、而モ法典ハ頗ル浩瀚ナモノニアリマスカラ、一々之ヲ審査スル暇ハ事情ニ於テナカ^タノニアリマス、ソレ故ニ私共ハ法典調査會ニ信用ヲ置キマシテ、斯ノ如キ事業ニ附キマシテハ、學者専門家是等ノ者ヲ信任シテ、之ニ協賛ヲ與ヘルノ外ハナイト云フコトデゴザイマシテ、是ニ多分ノ信任ヲ置イタノニアリマス、然ルニソレガタメニ意外ニモ斯ノ如キコトヲシテ、自ラ審査委員ト爲リ、自ラ議場ニ於テ是ニ贊成シテ置キナガラ、又候其缺點ヲ攻撃シテ修正シナケレバナラヌト云フコトニ相成^{シタ}ハ、實ニ吾々ハ天下ニ向^クテ謝シテ宜イコト、思フ、併ナガラ吾々ノ粗漏ハ粗漏ト致シマシテ、法ノ缺點ハ之ヲ改ムルノ外ハゴザイマセヌ、而シテ苟モ自己ノ過失不注意粗漏、是等ノモノニ依リマシテ人ニ損害ヲ加ヘタトキ、之ヲ賠償セナケレバナラヌト云フコトハ、單純ノ學理ノ上カラ言ヒマスレバ、論ノナイ筈デ、學理ノ上ニハ一點ノ批難ヲスル點ハナイト信ジテ居リマス、故ニ之ヲ學者ノ論ト致シマシテ、斯^ク規定サレマシテ、別段除外例ヲ設ケナカ^タハ、決シテ望ムベキコトデハナイト思フ、併ナガラ諸君ハ立法者ニアリマスカラ、唯學者ノ如キ純粹ノ學理ヲ穿鑿スルト云フコトノミヲ以テ、其往ヲ盡シタモノトハ言ヘマセヌ、一方ニ於テハ學理ノ點ヲ探究スルト共ニ、一方ニ於テ實際ノ人情習慣便不利害得失ト云フモノヲ斟酌シテ、即チ學理ト實際ノ調和ヲ圖ルト云フコトガ、即チ諸君ノ本分ニアラウト信ジマス、故ニ此失火ニ附キマシテ、民法ノ原則ヲ適用スルト云フコトハ、學理ノ上ニ於テハ妨ダナイト致シマシテモ、吾々國民ノ代表者トシテ、自ラ立法ノ責任ニ當ルト云フ際ニ於キマシテハ、少シク考フベキモノデアリマシテ、縱令之ニ反對セラル、諸君ト雖モ、少クモ一顧ノ值ハアル問題デアルト信ジテ居リマス、諸君、此問題ハ能ク御考ヲ願ヒタイノニアリマス、決シテ輕々ニ御覽ナサル問題デハアリマセヌ、私ガ本案ヲ提出致シマシタ第一ノ理由ハ、此失火ト云フモノハ、古來人ノ不幸デアルト云フコトデ皆人ガ之ヲ注意スルト云フ有様ニナ^カテ居リマス我國ノ慣習ハサウデアリマス、而シテ其慣習ハ唯慣習トシテ成立^{シテ}居ルバカリデナインデアリマス、我國ノ從前ノ法律ハ、明ニ此慣習ヲ是ナリトシテ、認メテ居^{シタ}ト云フコトハ、御記憶ヲ願ヒタ^シ、此刑法ノ附則ニ於キマシテ、此慣習ヲ認メテ、是マテ「失火ハ此限ニアラス」ト云フ規定ガア^{レタ}ノニアリマス、斯ノ如ク是ハテノ損害賠償ヲ負ハセナケレバナラヌカ、ソレニ附キマシテ私ハ決シテ、ソレダケノ必要ヲ見ナイ、又ソレダケノ道理ヲ見ナイノデアリマス、即チ慣習

ニ背クト云フコトハ、此修正ヲ要スル第一ノ理由デアリマス、ソレカラ人情ニ背クト云フコトモ見ナケレバナラヌ、何ゼカト云ヒマスルト、諸君モ御承知ノ通ニ、人ノ家屋ト云フモノハ、恰モ人ノ城郭トモ云フベキモノデアリマス、人ガ據テ以テ安息スベキ惟一ノ安息所デアリマス、又生活ノ中心デアリマス、ソレガ火ヲ出シテ自分ノ家ヲ焼クト云フコトハ、自分ノ家ヲ焼イタト云フソレ自身ガ、即チ人ノ不幸デアル、ソレガ鄰ノ家ヲ焼キ、又鄰ノ家ヲ焼イタト云フ場合ニ、賠償ノ責ヲ負ハセルノハ、即チ人情ニ悖ルモノデアルト、私ハ斷言致シマス、ソレカラ致シテ、是等ノモノハ人情習慣ト云フコトニ依テ説明致シマシタガ、是ハ法律案デアリマスカラ、私ハ少シク法理上ヨリ、本案ヲ説明致シテ見タイト思ヒマス（恵松隆慶君）「モウ宜シイ委員付託ニナルカラ」ト呼フ）マ一時辛抱シ給ヘ、茲ニ反對シヤウト思ヒテ、控ヘテ居ル人ガアルカラ……（ヤルベシヤルベシト呼フ者アリ）又火災ハ實ニ意外ノ事柄ガ起ル、幾ラ注意シテモ防ダナイコトガアル、法律カラ見レバ、矢張ソレガ不注意ニナル、諸君ガ火災ノコトハ、東京トカ大阪トカ云フ所バカリト思フト達フ、諸君ガ宿屋ニ居テ、仕舞汽車デ國ニ立タナケレバナラヌト云フ場合ニ、帶ガ解ケテ「ランプ」ガ倒レタ、メニ、疊ヲ燒キ障子ヲ燒キ、遂ニ火災ヲ起スト云フトキニ、諸君モ此危險ニ遭ハヌトモ言ヘナ、決シテ是ハ餘所ノコトハ思ヘヌノデアル、サウ云フ輕微ナ過失ニ於テモ、矢張損害賠償ヲサセルト云フコトハ、所謂難キヲ人ニ責メルト云フ法理ニ過ギヌト云コアガ言ヘルデスカラ、此火災ハ實ニ結果ノ豫知セラレヌモノデアリマシテ、一度火ヲ失シマスト、何處マデ焼イテ行クカ知レヌ、本郷カラ火ヲ出シテ新橋マデ焼イテ往クカモ知レヌ、實ニ結果ノ豫想セラレヌモノデアリマスカラ、ソレニ對シテ損害賠償ノ責ヲ負ハスト云フコトハ、酷ナコト、言ハナケレバナラヌ、ソレカラ又サウ云フヤウナ結果ノ豫知セラレヌモノデアリマス、其犯罪ガアツテソレニ制裁ヲ加ヘルトキハ、犯罪ト制裁トガ釣合ハナイト云フコトニナリマスルカラ、社會ノ安寧ヲ保ツタメニ拘ヘタ法律ガ、却テ社會ノ安寧ヲ破ルト云フコトハ、皆犯罪ト云フノデアリマス、其惡意ニセヨ、苟も法律ノ認メナイコトヲシテ、即チ犯罪ガアツテ——諸君ノ法律家デナイ人ハ、犯罪ト云フト民事ニ犯罪ガアルカト云フ御考ガ起リマセウガ、民事上ノ犯罪トハ、法律ノ許サヌコトハ、皆犯罪ト云フノデアリマス、其犯罪ガアツテソレニ制裁ヲ加ヘルトキハ、犯罪ト制裁トガ釣合ハナイト云フコトニナリマス、既ニ本院ケレバナラヌト云フコトガ、新聞ニ書立テラマシタ、ソレガタメ、ドレダケ東京始各市街地ノ者ガ騒ガ知レナイ、是ハ地方ノ人ニハソレ程感ジガナイガ、人家稠密ノ所デハ、非常ナ騒ギヲヤッテ居ルノデアリマス、既ニ本院杯ニモ、各地カラ澤山請願ガ出テ居リマシテ、請願委員會ハ之ヲ是認シテ報告ヲシタト云フヤウナコトデアツテ、今申シマスルヤウニ、我國ノ家屋ハイガ、

木造デアリマシテ、歐米各國ノヤウニ煉瓦トカ石造トカ云フモノデハナイ、木造デアルカラ火事ヲ起セバ、何處マデ焼ケテ往クカ知レナイト云フコトガ言ヘル、然ルニソレニ責任ヲ負ハシメルト云フコトハ、甚ダ苛酷デアル、又法理ニモ適シナ、刑ト犯罪トガ權衡ヲ得ナイコトニナリマス、ドノ點カラ論ジテ見テモ、失火ニ對スル損害賠償ノ責ヲ負ハシメルト云フコトハ、宣シカナイト云フコトガ言ヘル、故ニ之ニ對シテハ例外ヲ設ケネバナラヌト思ヒマス、然ルニ又斯ウ云フコトヲ考ヘテ見ナケレバナラヌ、失火ニ附イテ唯ノ

○山本幸彦君（九十七番）是ハ委員付託ニナリタウゴザイマス、政府委員モ意見ガアルナラバ、委員會ニ於テ十分御辯明ニナルガ宜カウト思ヒマス、
○議長（片岡健吉君）恵松隆慶君カラ、本郷カラ火ヲ出シテ新橋マデ焼イテ往クカモ知レヌ、實ニ結果ノ豫想セラレヌモノデアリマス、
○政府委員（法學博士梅謙次郎君）私ハ簡單ニ本案ニ對シマシテ
○託スルト云フ動議ガアリマスガ、此動議ニ御異議ハアリマセヌカ
（「贊成々々」ノ聲起ル）
（「委員付託贊成」ト呼フ者アリ）
（「モウヨシ」ノ聲起ル）
（「恵松隆慶君」委員九名ハ議長指名デアリマス「ト呼フ」）
（政府委員東京帝國大學法科大學教授法學博士梅謙次郎君演壇ニ登ル）
○議長（片岡健吉君）恵松隆慶君カラ、本案ハ議長ノ指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フ動議ガアリマスガ、此動議ニ御異議ハアリマセヌカ
（「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル）
○議長（片岡健吉君）議事日程第十五ニ移リマス特別報告第二號鹿兒島縣大島郡各離島航海補助費増額ノ請願、山本幸彦君
（山本幸彦君演壇ニ登ル）
（特別報告第一號鹿兒島縣大島郡各離島航海補助費増額ノ請願
（委員長）
（山本幸彦君演壇ニ登ル）
（山本幸彦君演壇ニ登ル）
（特別報告第一號鹿兒島縣大島郡各離島航海補助費増額ノ請願
（委員長）
○山本幸彦君（百八十九番）委員會ニ於ケル審議ノ大略ヲ御報告致シマス（簡短々々ノ聲起ル）此大島郡ハ諸君モ御承知ノ通ニ、陸地ヲ距ルコト凡ソ百里、又其外小群島ヨリ成立ツタノ遠隔ノ孤島デアリマス、ソレデ是ニハ是程ノ海里ヲ隔テ居ルタメニ、爾來甚ダ交通ノ不便ヲ感ジテ居リマシタノデゴザイマシテ、ソレガタメニ義ニ政府ハ此島ノ航路ニ向ツテ、六千圓ノ助成金ヲ與ヘタノデゴザイマスガ、然ルニ百里モ隔テ居ル所デゴザイマシテ、六千圓ノ助成金ヲ得タダケデハ、漸ク月ニ一航海半ノ航海ヲ開イテ居ル位

